

北茨城市  
60年の軌跡  
そして未来へ

北茨城市  
60年の軌跡  
そして未来へ



北茨城市

北茨城市制60周年記念誌

1956-2016

Kitaibaraki City  
60th Anniversary

北茨城市  
60年の軌跡  
そして未来へ

1956-2016

Kitaibaraki City  
60th Anniversary

北茨城市制60周年記念誌

## ごあいさつ

北茨城市は昭和31年3月31日に誕生し、60年の節目の年を迎えました。昭和30年代は、本市発展の礎でもあった石炭産業の衰退により産業・経済構造が大きく変わるなど、幾多の試練や苦難がありました。その後、工業団地造成など新たな地域振興策を展開する一方、小・中学校建替え、保育所の開設や茜平青少年の家の開所など市民福祉向上、上下水道施設整備、磯原駅西土地区画整理、道路網など都市基盤の整備、さらには港湾改修、土地改良など産業基盤の確立を図り、市民の皆様の暮らしに密着した市政を進めてまいりました。

ひとえに、今日の北茨城市の発展は、多くの先人の方々が夢と希望を抱き理想のまちづくりのため、たゆまぬ努力を続けてこられた成果であります。

しかしながら、平成23年3月11日、本市にとって決して忘れてはならない東日本大震災が発生し、家屋倒壊、電気、水道、道路網などライフラインの寸断、港湾や漁業施設が壊滅的な被害を受けるなど未曾有の大災害となりました。このような逆境にあっても私たちは、これまでに培ってきた地域の絆や幾多の困難を乗り越えてきた知恵と経験により、ひるむことなく震災から復興し未来へ大きく飛躍しようとしております。

市制施行60周年の節目にあたり、本市の発展に寄与された多くの方々に改めて敬意を表するとともに、本市のさらなる発展を願い、市民の皆様、議会、行政の協働により誰もが安心して生活ができ、誰もが住んでみたい「健康都市づくり」を北茨城創生への政策の柱として、市民の皆様とともに歩んでまいります。



北茨城市長

豊田 稔

## ごあいさつ

このたび、市制施行60周年記念誌の刊行にあたり、市議会を代表いたしましてごあいさつを申し上げます。

北茨城市は、昭和31年の市制施行後、エネルギー革命による石炭産業の衰退により、人口が大きく減少した時期もありました。その後、本市は、工業用地造成など産業基盤の整備、企業誘致、進出企業の税制優遇措置などを積極的に押し進め、発展への道を切り開いてまいりました。

これまでの発展にご尽力を賜りました多くの皆様方に対し、敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

平成23年に発生した東日本大震災では、甚大な被害に見舞われましたが、市執行部はじめ、多くの皆様のご尽力により、震災からの復興にいち早く取り組まれ、生活基盤の整備が進み、新市民病院及び家庭医療センターの開院、新消防庁舎の建設など、安心、安全なまちづくりの拠点となる施設整備が進みました。また、教育文化の振興面においても、新図書館の開館や関本小中一貫校の開校を間近に控え、明るい未来への第一歩を踏み出したところです。

市議会といたしましても、市制施行60周年の節目にあたり、地域経済の活性化や魅力あるまちづくりを推進するため、さらに市民の皆様のご意見やご要望を十分にお聞きしながら、北茨城市発展のため全力で取り組んでまいり所存でございます。



北茨城市議会議長  
鈴木 和栄



3 市長あいさつ

4 市議会議長あいさつ

## 6 北茨城 こころの風景

～昭和30年  
17 往きし日の面影 市制施行以前

27 昭和31年～40年  
北茨城市誕生  
昭和の町村大合併／常磐炭鉱／港のある風景／ハレの日の街角／健やかに育て／学校にて／みんな元気／駅・道・ダム

45 昭和41年～50年  
工業団地造成  
廃鉱のあと／生まれ変わる北茨城1／生まれ変わる北茨城2／市民歌誕生／子どもたち／茨城国体

59 昭和51年～60年  
みんなの力をあわせて  
新しい道／建設ラッシュ／市民パワー／がんばれ、がんばれ／あの日あの時1／あの日あの時2

73 昭和61年～平成7年  
整う生活基盤  
開通しました／学舎の笑顔／新庁舎完成／台風通過／続々オープン／今に生きる雨情／まちの話題／催事花ざかり

91 平成8年～22年  
豊かさを求めて  
五浦美術館開館／充実する施設1／充実する施設2／市政あれこれ／文化の交流／祝う・集う／地域をつなぐ／住民サービス

109 平成23年～28年  
大震災に立ち向かう  
東日本大震災1／東日本大震災2／東日本大震災3／立ち上がる／復興へのあゆみ1／復興へのあゆみ2／明日に向かって／そして未来へ

129 ふるさとの60年  
インタビュー  
小中学生の作文より

142 資料編

# ふるさとの誇り



五浦海岸と六角堂



花園溪谷



定波のブナ林



浄蓮寺溪谷

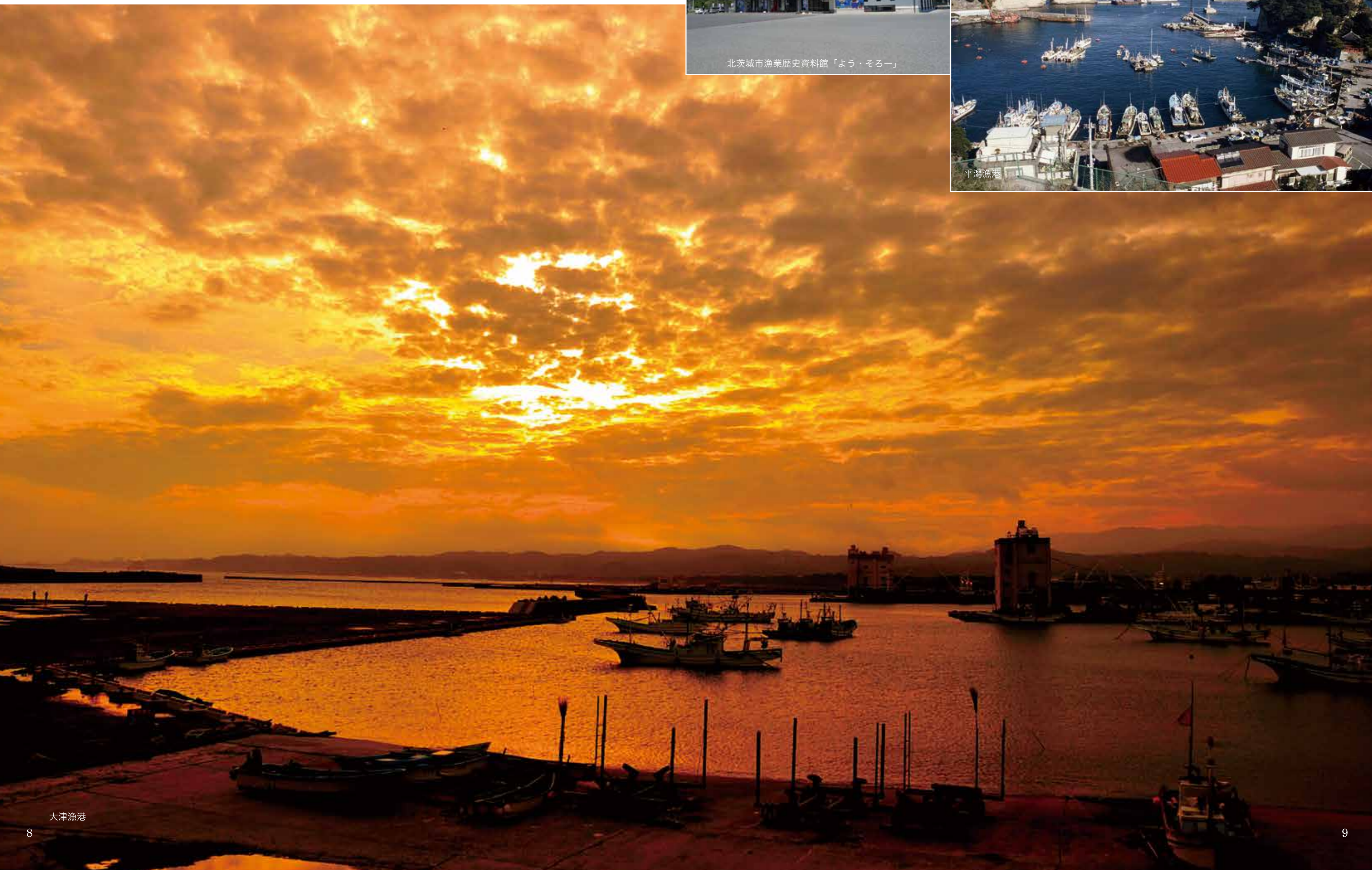


天妃山の日の出



二ツ島海水浴場

# 漁師町の光景



# 天心が愛した五浦



五浦岬公園



五浦岬公園展望慰霊塔



茨城県天心記念五浦美術館



日本美術院跡石碑



岡倉天心旧宅



六角堂

# 雨情の歌が響くまち



とおりゃんせ像（二ツ島）



JR常磐線磯原駅のからくり時計



歴史民俗資料館（野口雨情記念館）



野口雨情生家



# 里山の風景



ガラス工房シリカ



シリカでの吹きガラス



福寿草 (茜平)



花園神社



水沼ダム



浄蓮寺



ノルディックウォーキング

# 市民のにぎわい



常陸大津の御船祭



石岡さくら祭り



北茨城市民夏まつり

# 往きし日の面影

[1955]市制施行以前



[昭和]



30年

# 往きし日の面影

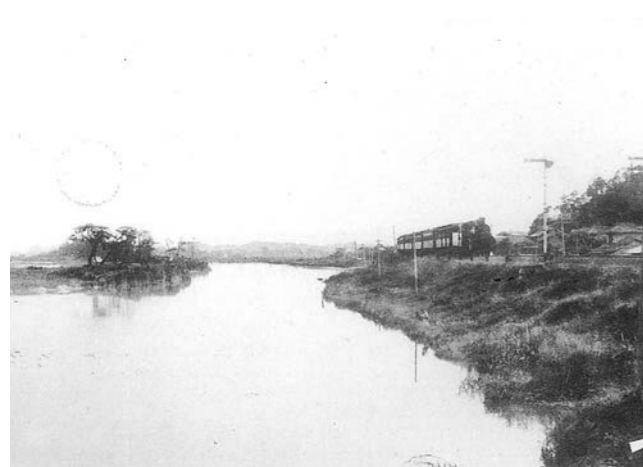
市制施行以前  
[-1955]



磯原海岸に祀られる天妃神社



平潟の海岸通り



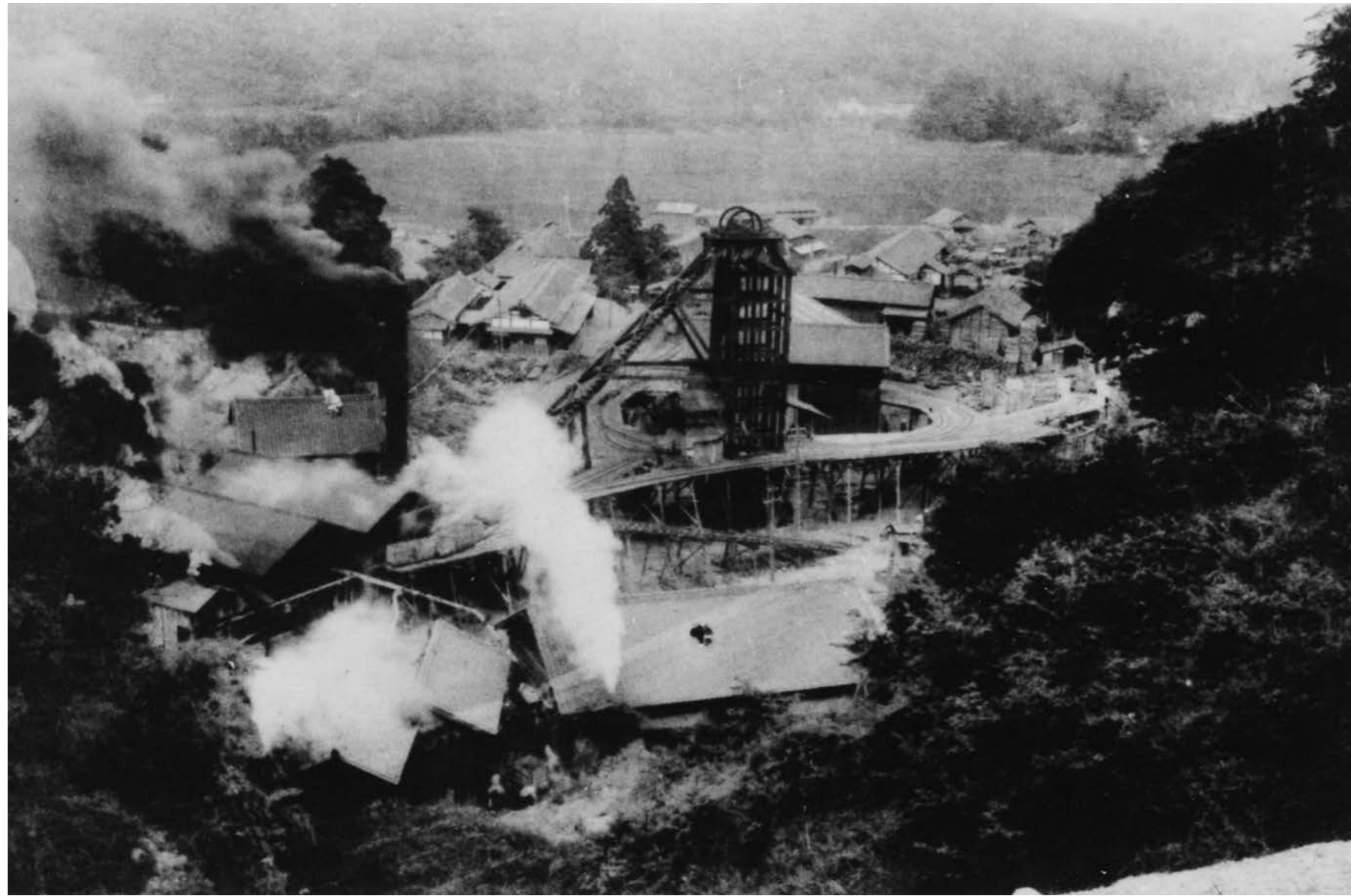
大北川の眺め。常磐線が並走する



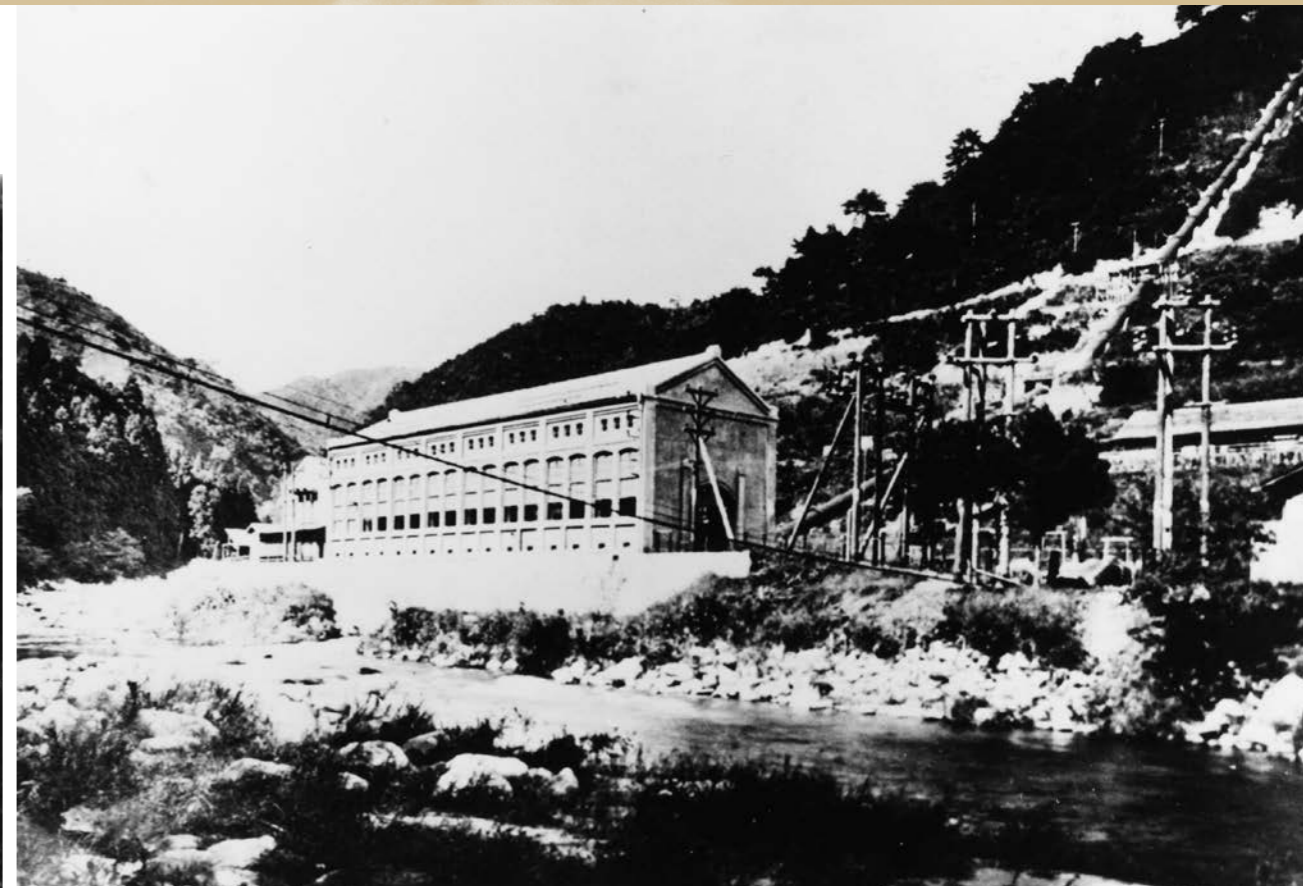
大津町の海沿いに広がる家並み



「末の松波」と呼ばれた街道の松並木（現在の国道6号、下桜井付近）



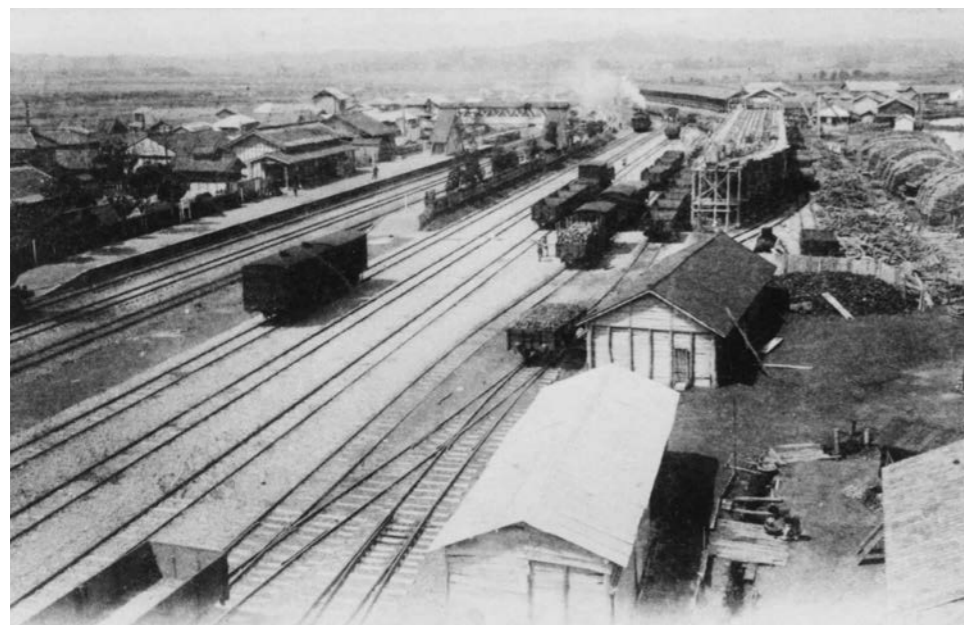
茨城無煙炭鉱の第1坑



石岡第一発電所は、日立鉱山へ電力を送るために建設された鉄筋コンクリート造りの水力発電所（明治44年）



茨城採炭の磯原駅石炭積み込み場



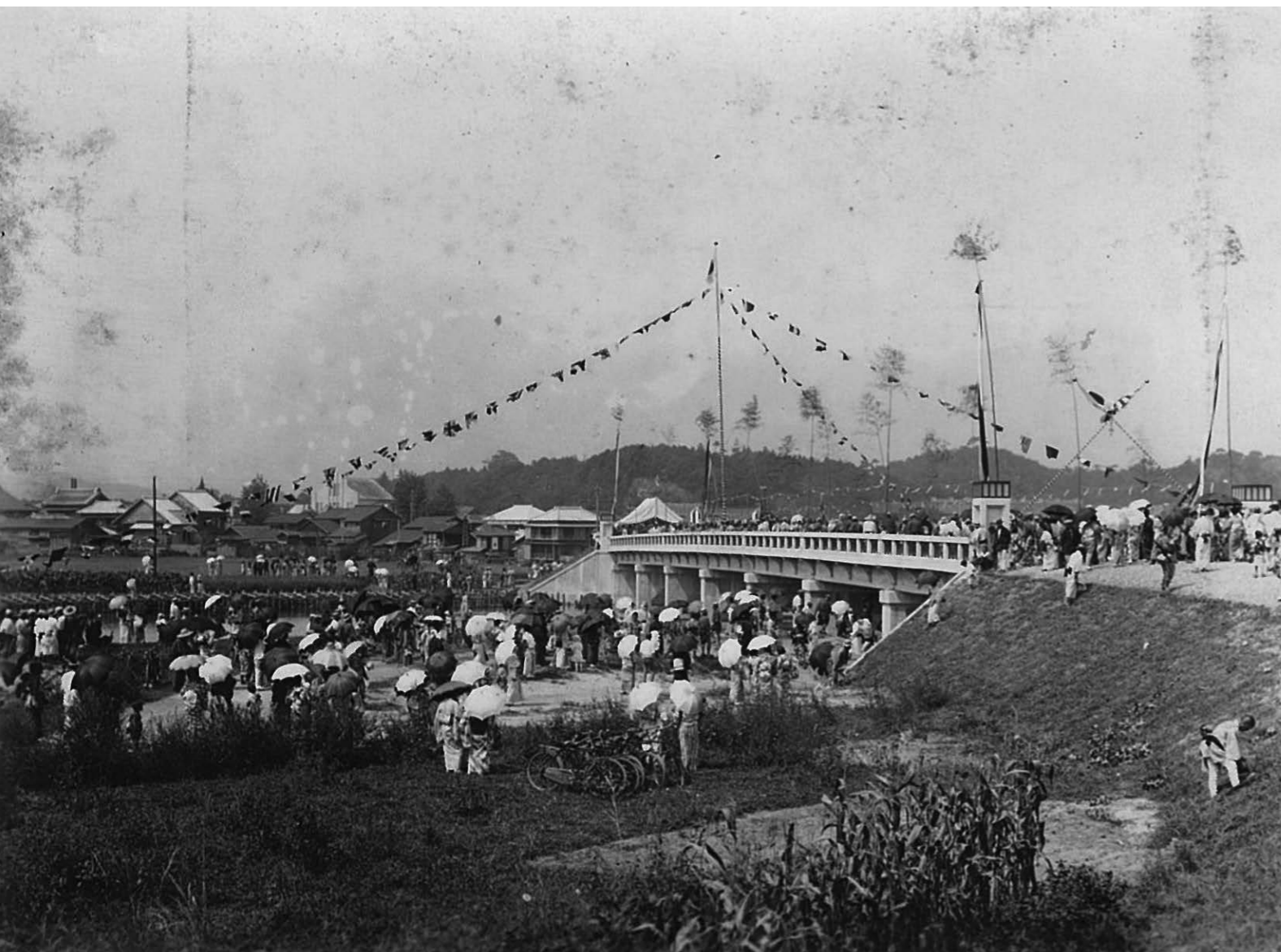
大正期の磯原駅構内全景



酒井醸造家の主人と杜氏たち（大正10年頃）

# 往きし日の面影

市制施行以前  
[-1955]



国道6号に大北橋が完成し、式典が開かれた（昭和5年）



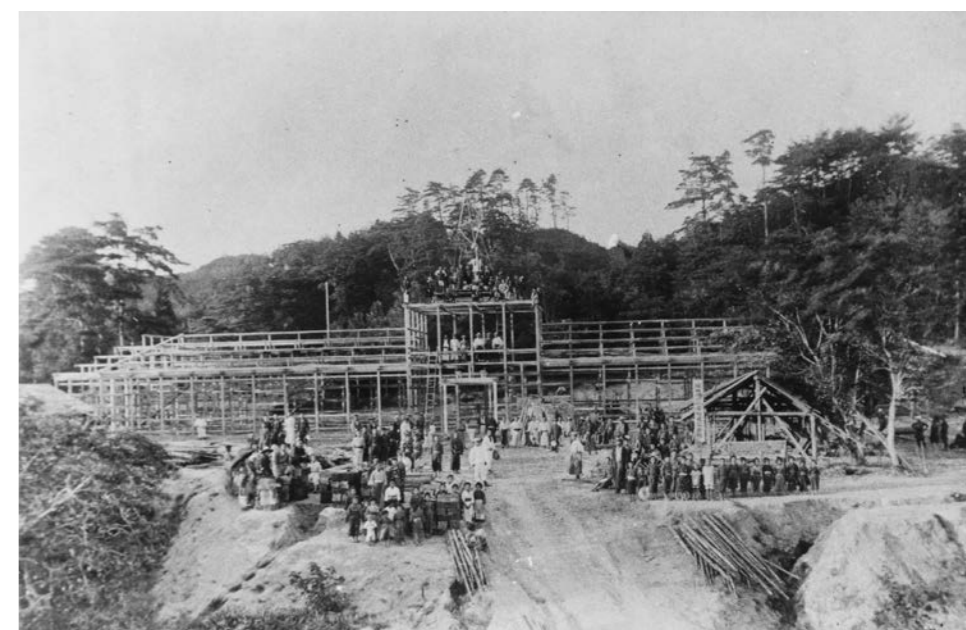
大津西町での葬儀風景（昭和5年）



里根川河口での鶺鴒風景（大正7年頃）



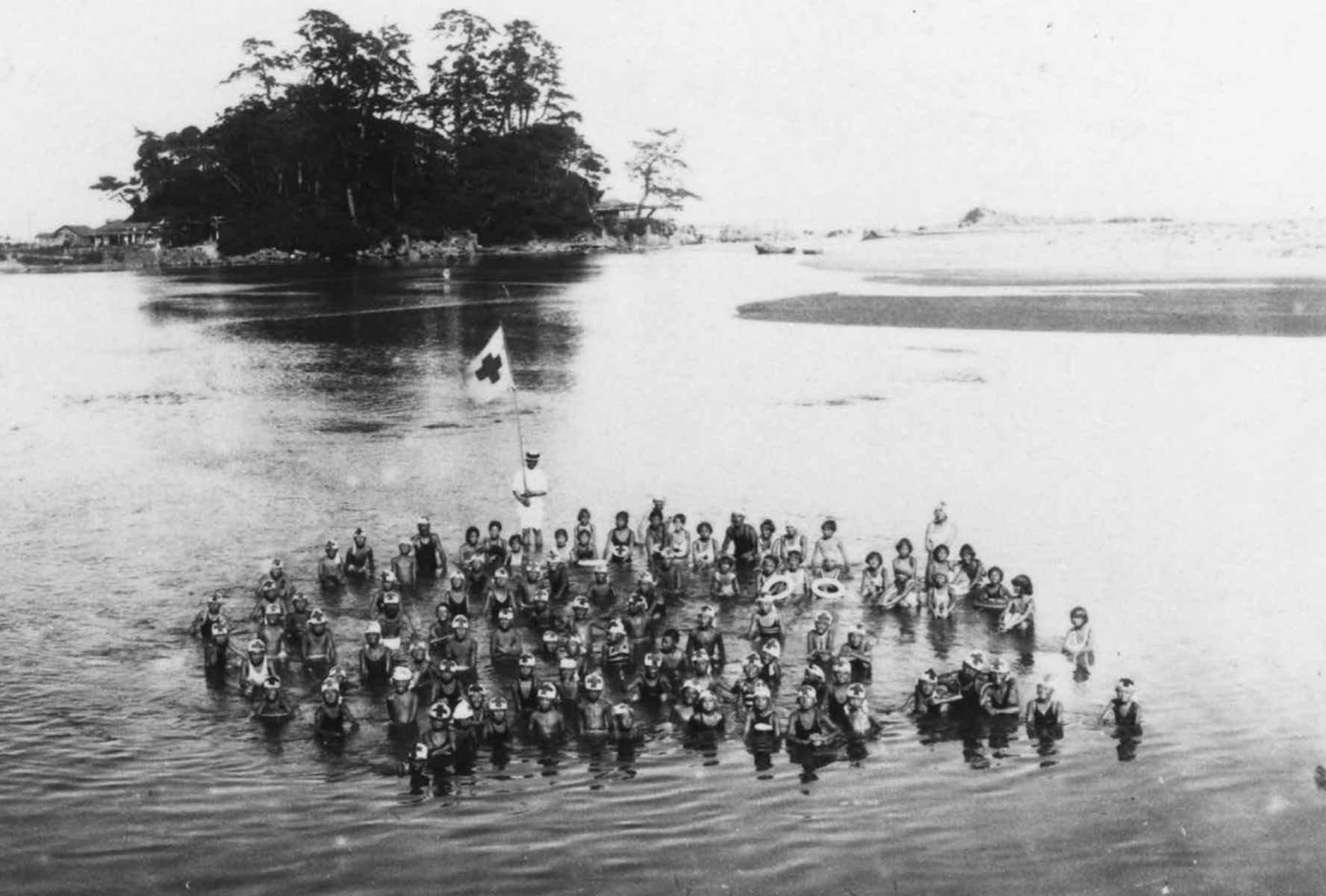
関本町で行われた天然氷の切り取り風景（明治43年頃）



福田小学校（関本第一小学校）の上棟式（明治40年）

# 往きし日の面影

市制施行以前  
[-1955]



磯原夏季児童保養所の児童海水浴（日赤県支部提供、昭和2年）



磯原海水浴場



多賀郡中妻尋常小学校卒業式での集合写真（昭和15年頃）



大津町立水産学校卒業写真（明治39年）



南中郷村役場（昭和17年）

# 往きし日の面影

市制施行以前  
[-1955]



遠足で六角堂を訪れた中妻小学校の児童（昭和25年頃）



関南小学校3年生の集合写真（昭和25年頃）



関本中学校の運動会（昭和26年頃）



大津空襲で被害を受けた住宅地（昭和20年）

# 北茨城市誕生 [1956-1965]



北茨城市の合併当時の人口は6万人を超え、県内でも4番目の人口規模を誇る大きな市として誕生しました。

この昭和30年代は道路や学校、住宅など、新しい市として市民生活の基盤となるインフラの整備が重点的に進められました。

産業は、主に西部山間地は炭鉱と林業、中間地域は農業、東部海岸地域は水産業や商工業が行われていました。特に炭鉱は盛んであり、大小20もの会社が操業し、固定資産税をはじめとする市税収入が歳入の50%を占めるほどでした。

しかし、当時の基幹産業だった炭鉱は、「石炭から石油へ」のエネルギー革命の進展により、徐々に衰退への道を転がり始めていました。そのため、市では新たな産業の創出による産業構造の転換を迫られていくこととなります。

[昭和] 31年 → 40年



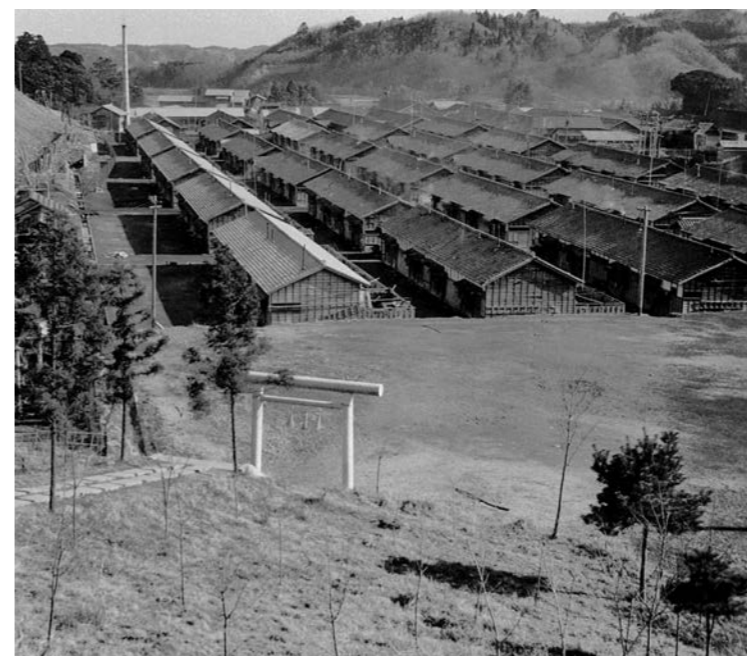




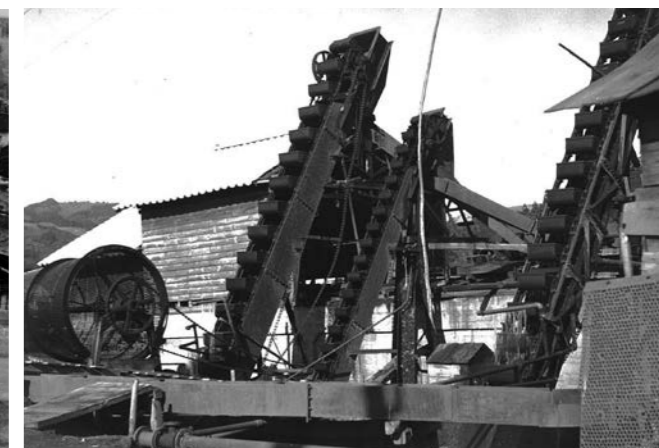
炭鉱内部で石炭の掘削作業に従事する作業員たち（昭和30年代）



昭和30年代の炭鉱風景



炭鉱全盛期の常磐炭鉱神ノ山社宅（昭和30年代）



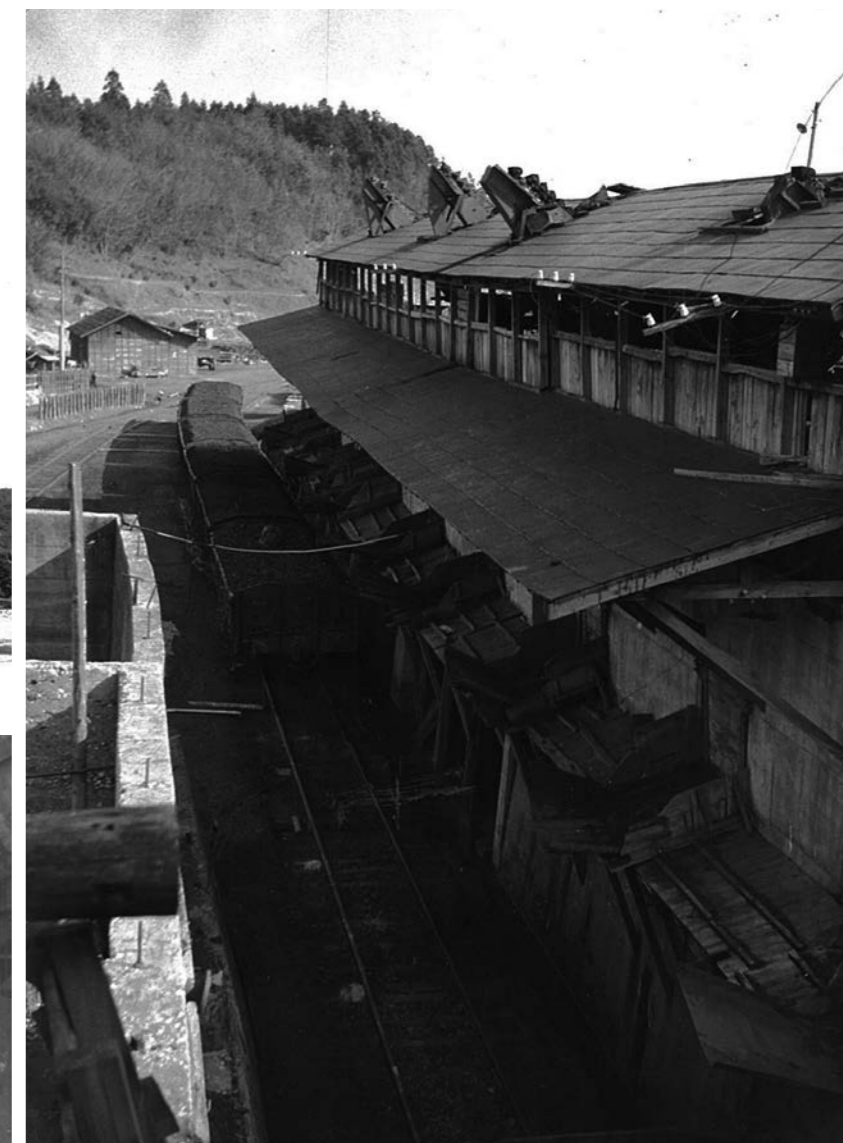
重内炭鉱の選炭機（昭和31年頃）



昭和30年代の中郷炭鉱の選炭と積み出しポケット



石炭の積み込み風景（昭和30年代）



山口炭鉱の選炭機（昭和31年頃）



大津漁港の水揚げ風景 (昭和30年代)



平潟漁港の漁の作業 (昭和34年)



平潟漁港と街並み (昭和40年頃)



水揚げされた魚が並ぶ平潟漁港 (昭和40年頃)



昭和30年代の大津漁港の風景



昭和32年頃の大津漁港全景



チリ地震津波の影響で潮が引いた平潟漁港 (昭和35年)



磯原駅前広場（現東口）の盆踊り大会（昭和33年）



市内一周駅伝で中郷の青年が優勝（昭和32年）

暮れ市でにぎわう磯原駅前通り（昭和30年代）



17年ぶりに開催された御船祭（昭和32年）



産業人対抗サイクルロードレースが大津町発着で開催された（昭和32年）



自衛隊音楽隊が大津町をパレード（昭和34年）



磯原駅前をパレードする警察音楽隊（昭和32年）



大北川沿いの国道6号で行われた出初め式（昭和34年）



産業振興のため物産品評会が開かれていた（昭和35年）

## 健やかに育て

北茨城市誕生 [1956-1965]



市内を巡回していた検診車（昭和37年）



磯原一円で行われたネズミ取り（昭和32年）



赤ちゃんコンクールが開かれ、受賞者が記念撮影（昭和38年頃）



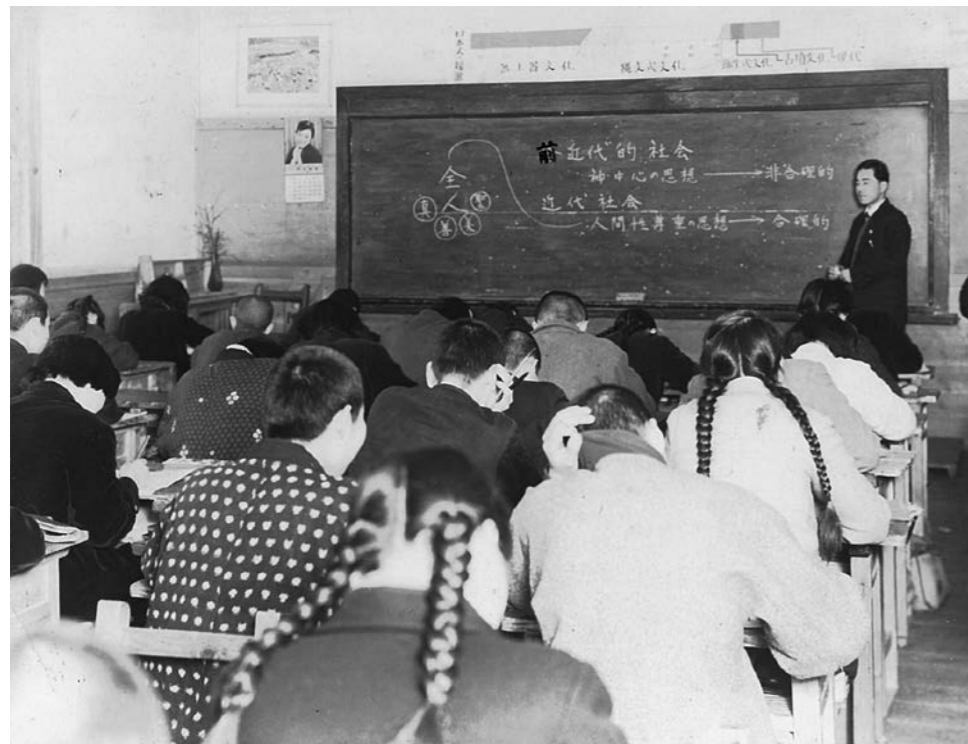
中郷第一小学校の給食風景 (昭和40年)



空から見た中妻小学校全景 (昭和30年代)



富士ヶ丘小学校の運動会 (昭和30年代)



関本中学校の授業風景 (昭和38年)



華川中学校運動会で演技を披露する生徒 (昭和32年)



関南小学校の修学旅行 (昭和39年)



中郷第一小学校の修学旅行 (昭和36年)



水辺で遊ぶ子どもたち (昭和37年)



町内の草刈りをする子どもたち (昭和30年代)



中郷町の晴々荘プールで水泳の授業をする中郷第一小学校の児童たち。晴々荘、偕山荘は常磐炭鉱の保養所だった (昭和33年頃)



子どもたちが水遊びを楽しむ関本町の偕山荘プール (昭和36年頃)



遊具を備えた滝分小公園が磯原町本町の市庁舎わきに完成 (昭和37年)



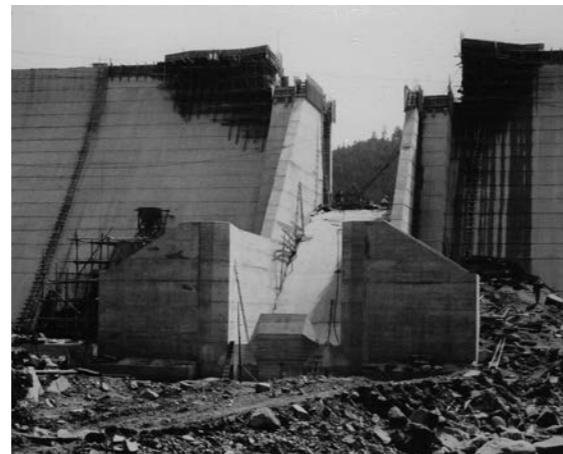
常磐線の高萩一平間が電化される (昭和38年)



昭和40年頃の常磐線大津港駅(上)と磯原駅



工事が進む現在の国道6号平潟トンネル (昭和35年)



建設工事が進む水沼ダム (昭和38年)



昭和40年頃の磯原。大北川沿いに常磐線、国道6号が走る



昭和31年	3月	磯原町、大津町、平潟町、関南村、関本村、南中郷村の6町村が合併し市制施行
	5月	市長選挙執行、初代市長に片寄富七氏就任
	8月	北茨城市章が決定する
	10月	市制施行記念合併祝賀式
昭和32年	1月	映画「雨情物語」撮影開始。主演は森繁久彌氏
	3月	市制施行後初の市議会議員選挙実施。当時は6選挙区（華川以外）定員36人
	5月	大津町の御船祭が17年ぶりに開催
	10月	磯原町本町に市役所庁舎が完成
昭和33年	2月	磯原地区商工会が結成される
	9月	水沼へき地診療所が完成
	10月	北茨城市国民健康保険事業が始まる
昭和34年	1月	北茨城市立病院が完成。27日から診療開始
	4月	第1回市長杯争奪野球大会開催
	6月	水戸地方法務局大津出張所が廃止され磯原出張所と統合
昭和35年	1月	中郷町有線放送電話開通
	3月	大津岬灯台が完成
	4月	市長選挙執行、片寄富七氏再選
		国道6号舗装化が二ツ島まで完了
		国道舗装化の記念事業として二ツ島公園が整備され、ブロンズ像が建立される
	7月	北茨城市商工会結成。平潟、大津、関南、関本、磯原の5商工会が一本化
昭和36年	1月	市消防団改組により19分団に統合
	6月	磯原町に青年研修所開所
昭和37年	1月	華川、磯原、関南、関本有線放送開始
	4月	市役所わきに滝分小公園が完成
	9月	中郷町石岡橋場地区の石岡橋架け替えが完成
	11月	関本町小川地区に電気導入
昭和38年	1月	関本町小川地区が電化される
	6月	常磐線高萩-平間が電化され、上野-平間が全線電化となる
	11月	茨城大学五浦研究所内に天心記念館完成
昭和39年	1月	上水道事業起工式
	4月	市長選挙執行、豊田實氏就任
	11月	関本町平袖地区が電化される
昭和40年	3月	華川浄水場が完成
	12月	磯原工業団地第1期造成工事着手

# 工業団地造成

[1966-1975]

市制10周年を迎えた北茨城市は、大きな転換期を迎えていました。

押し寄せるエネルギー革命の波は避けられず、かつての基幹産業だった炭鉱は相次いで閉山に追い込まれ、とうとう昭和46年にはすべての炭鉱が閉山となります。そして、これに伴う大幅な人口減少に見舞われます。

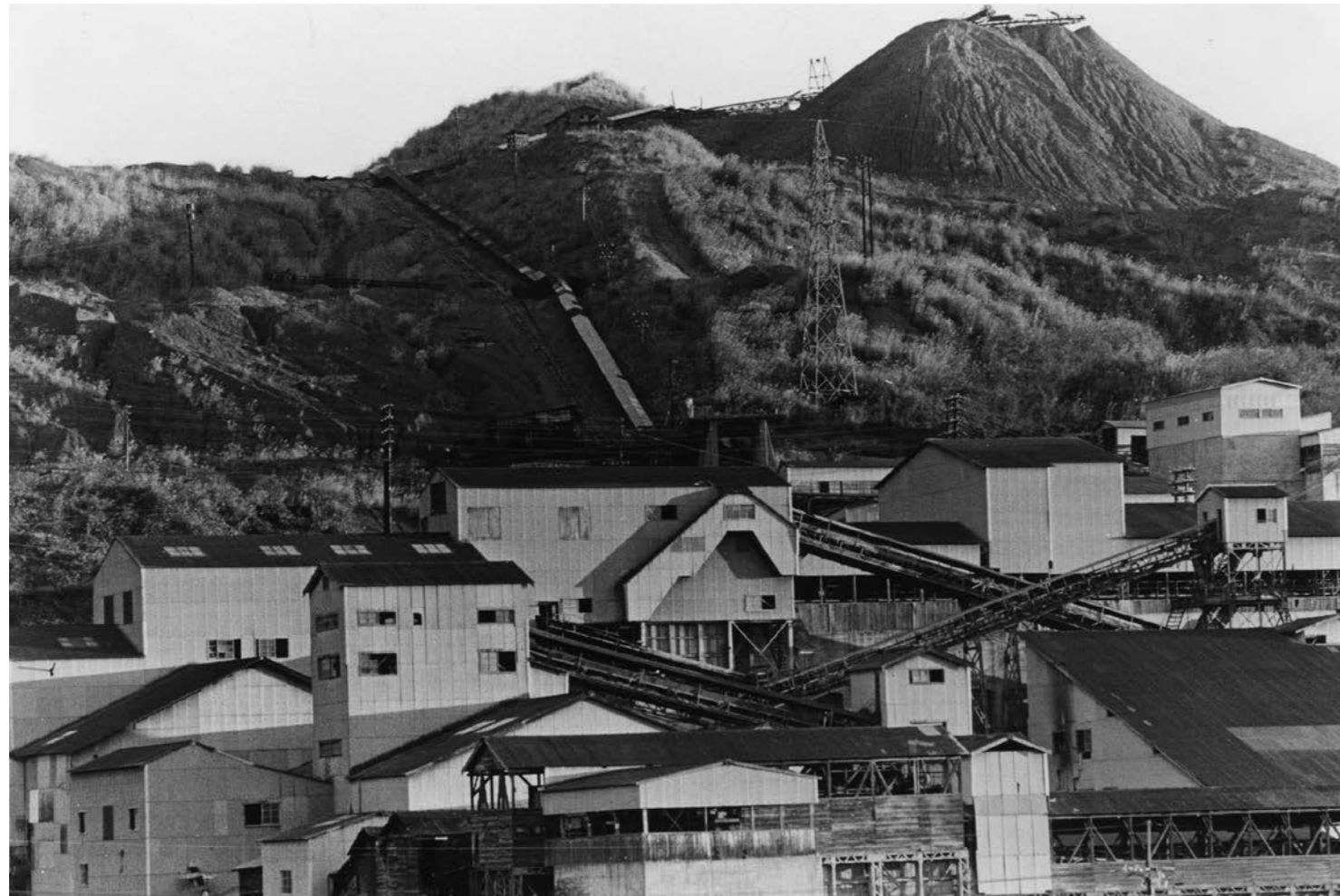
市では、炭鉱が衰退していく状況を見据え、昭和40年当初から磯原工業団地の造成に着手し、企業誘致により雇用の場を確保することに努め、併せて住宅団地の造成も進めるなど、職住一体の環境整備による工業都市への転換を進めていきました。

一方、上水道の整備や北茨城市消防署の発足など社会基盤の整備をはじめ、市立病院の建て替え、乳児や老人、障がい者に係る医療費の無料化や老人憩いの家、青少年の家の設立など医療や福祉などの面でも充実を図りました。

これらの対策が功を奏し、昭和48年には約43,000人にまで落ち込んだ人口の減少傾向にも歯止めが掛かり、翌年からは再び増加に転じていきます。

[昭和]

41年 → 50年



常磐炭鉱中郷鉱とズリ山 (昭和46年)



閉山した関本炭鉱 (昭和44年)



閉山後の常磐炭鉱中郷鉱 (昭和46年)



当時の関本保育所 (昭和41年)



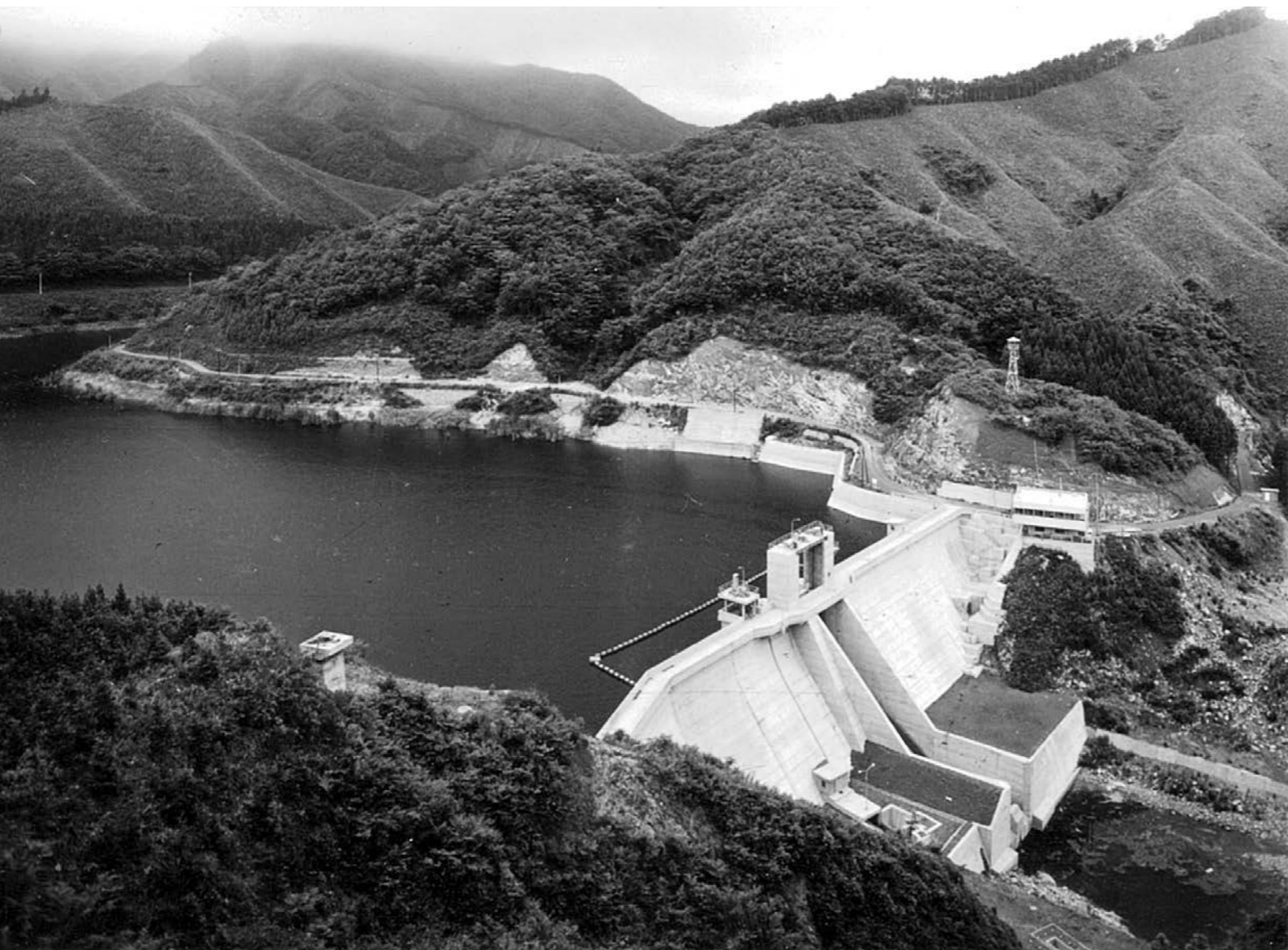
ズリ山から見た炭鉱風景



市役所前で行われた大日本炭鉱離職者への退職金支給 (昭和42年)

[昭和] 41年 → 50年 生まれ変わる北茨城 1

工業団地造成 [1966-1975]



県内初の多目的ダムとして完成した水沼ダム（昭和41年）



造成が進む磯原工業団地（昭和42年）



磯原住宅団地の分譲が始まる（昭和49年）



北茨城市消防庁舎が完成（昭和45年）



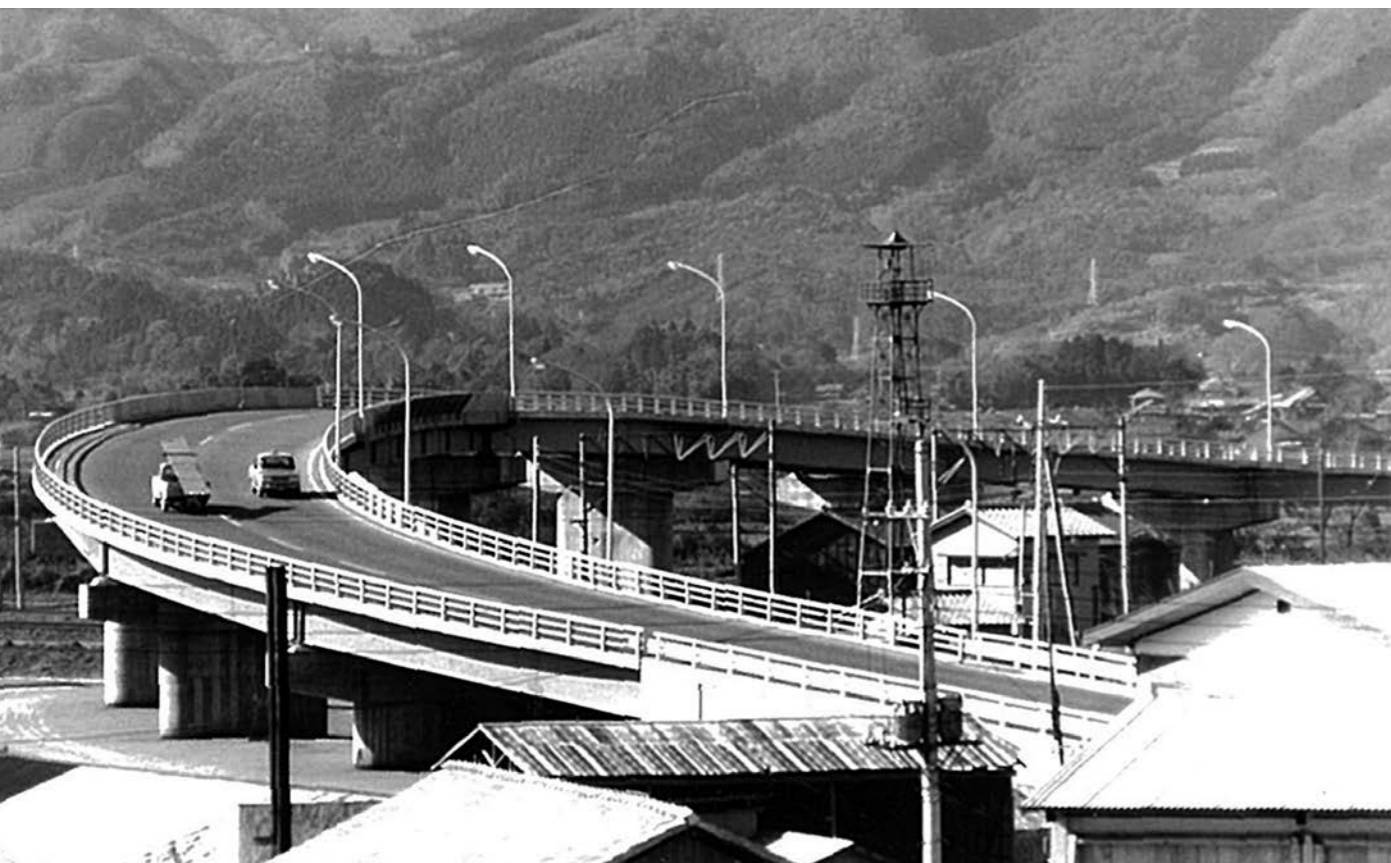
昭和50年当時のゴミ焼却場



北茨城電報電話局が開局。ダイヤル式電話になる（昭和43年）



建設が進む北茨城市立病院（昭和46年）



磯原立体橋が建設された (昭和44年)



常北中学校下に立体歩道橋が設置される (昭和42年)



茜平青少年の家がオープン (昭和47年)



立体橋と跨線橋が完成し、閉鎖されたことになった磯原踏切 (昭和43年頃)



海水浴シーズンでにぎわう国道6号で、安全を見守る市交通指導員 (昭和45年)



県社協によるお年寄りへのふとん乾燥サービス (昭和48年)



春の火災予防運動で「火の用心」を呼びかける (昭和43年)



北茨城市民歌が完成し、市民にお披露目された（昭和43年）



市民歌レコード盤ジャケット写真の撮影風景（昭和43年）



市民歌に合わせて踊る女性たち（昭和43年）



市制15周年記念式典が磯原中学校で開かれた（昭和46年）



初代市長の片寄富七氏（右）が名誉市民になる（昭和43年）



市役所窓口の様子（昭和44年頃）



柴田章市長の初登庁（昭和50年）



関本第一小学校の授業風景（右）と、廊下で卓球を楽しむ児童（左）（昭和40年代）



小川小学校でのたった1人の入学式（昭和50年）



交通少年団が結成され、市内をパレード（昭和49年）



夏休みのラジオ体操をする神ノ山炭鉱住宅の子どもたち（昭和43年）



磯原工業団地の企業を見学する卒業予定の中学生（昭和43年）



茨城国体で、大津町を通過中の炬火リレー（昭和49年）



前年の千葉国体ウェイトリフティング会場の船橋市から国体旗を引き継ぐ（昭和49年）



第1回県消防職員駅伝競走大会が開かれる（昭和46年）



ウェイトリフティング競技の会場となった磯原中学校体育館（昭和49年）



多くの家族連れなどにぎわう磯原海水浴場（昭和46年）



磯原工業団地で行われた盆踊り（昭和45年）



NHK のど自慢が磯原高校を会場に開催された（昭和42年）



[昭和] 41年 → 50年

工業団地造成  
[1966-1975]

昭和41年	2月	中郷、磯原、華川、関南、大津、関本の農協が合併
	4月	上水道給水開始 県立北茨城高校が開校
	6月	水沼ダム完成
	11月	市制施行10周年記念式典、記念事業が挙行される
昭和42年	3月	磯原工業団地第1期造成工事が完了。第2期造成工事に着手
	10月	大日本炭鉱閉山
昭和43年	11月	磯原工業団地第3期造成工事着手
	3月	北茨城市民歌の発表会を開催
	4月	北茨城市消防本部発足 花園小中学校、才丸小中学校を統合した水沼小中学校が開校 市長選挙執行、豊田實氏再選
	5月	自動電話（ダイヤル式電話）が開通
昭和44年	2月	NHK北茨城市テレビ放送局高帽山に開局
	4月	磯原、中郷の郵便局が統合され北茨城郵便局が発足
	8月	関本炭鉱閉山
	10月	重内炭鉱閉山
昭和45年	3月	消防庁舎完成
	4月	市立木皿保育所開所
昭和46年	8月	常磐炭鉱中郷鉱閉山
	11月	常磐炭鉱神ノ山鉱閉山 市制施行15周年記念式典挙行
	3月	磯原B工業団地造成工事着手
昭和47年	4月	晴々荘、偕山荘が老人憩いの家として開所 市長選挙執行、豊田實氏が三選
	5月	茜平青少年の家開所
	8月	磯原住宅団地起工式
	6月	磯原駅前通りで月1回の歩行者天国が始まる
昭和48年	10月	市公害防止条例制定
	5月	常陸大津の御船祭が13年ぶりに開催される
昭和49年	6月	中郷地区簡易水道給水開始
	10月	第29回国民体育大会茨城大会。市内でウェイトリフティング競技が開催される
	12月	磯原B工業団地第2期造成工事着手
	4月	北茨城市総合計画基本構想策定
昭和50年	5月	市長豊田實氏の逝去に伴い市葬執行
	6月	市長選挙執行、柴田章氏就任

# みんなの力をあわせて

[1976-1985]

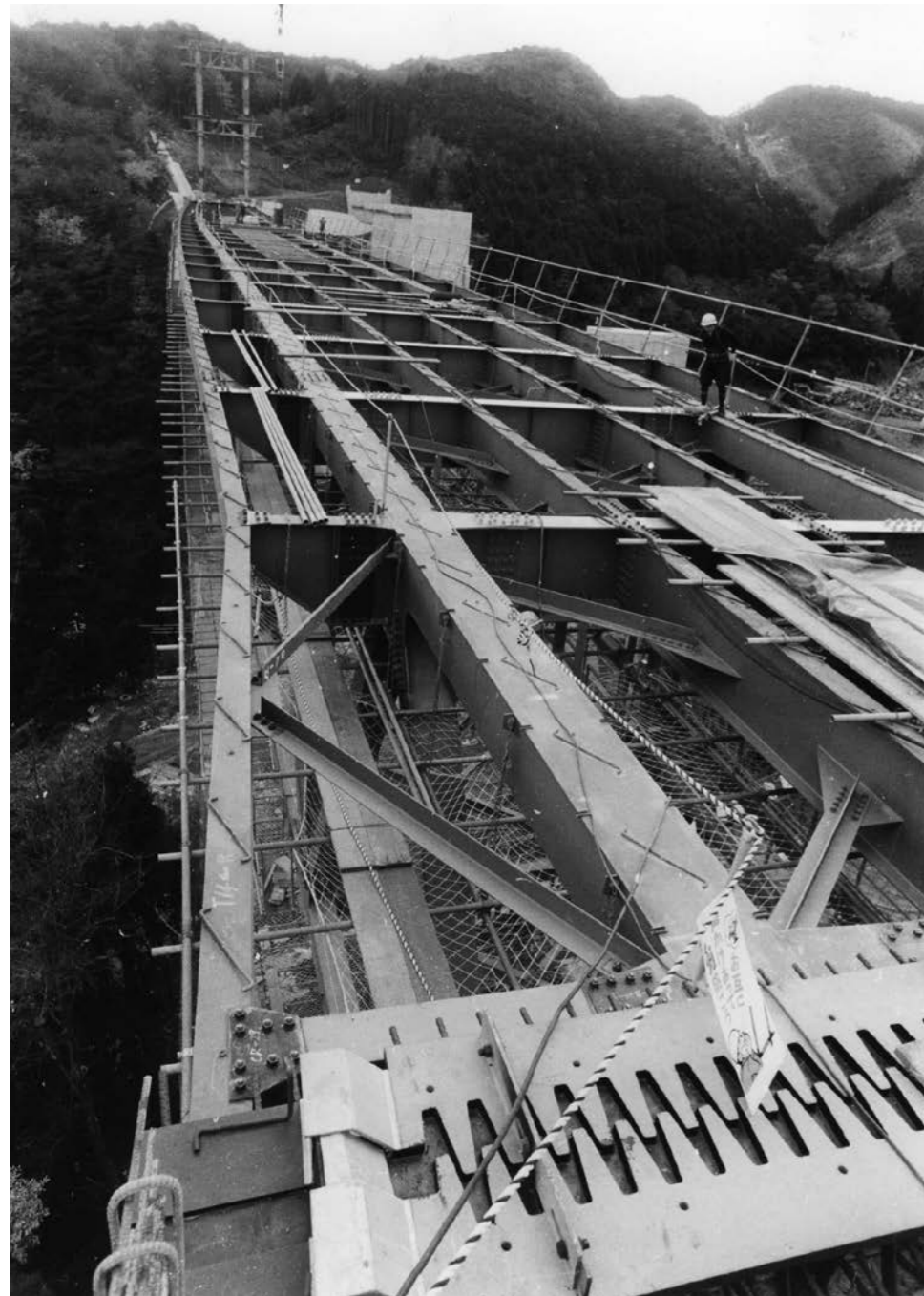
## 北茨城市の日

工業団地の造成と企業誘致、住宅団地の整備などにより回復に転じた人口は、昭和60年には51,000人を超えるまでになりました。

そこで、人口減少という危機的状況への対策を優先し、結果として遅れてしまった都市基盤の整備を急ピッチで進めていくこととなります。二ツ島立体交差点をはじめとする道路や清掃センターなどの生活インフラ、中妻市営住宅、五浦住宅団地、中郷ニュータウンなどの住環境、農地や漁港の整備、中郷工業団地の造成などによる産業振興といった事業が次々と進められました。

また、市制20周年記念事業として「市民まつり」が昭和51年に初めて開催され、市民体育館、市民プール、サッカー・ラグビー場、市民野球場などのスポーツ施設も記念事業の一環として建設されました。その後も歴史民俗資料館、公民館などの生涯学習施設の整備が行われたほか、童謡が縁となり長野県中野市との姉妹都市交流も始まりました。

[昭和] 51年 → 60年



工事が始まった常磐自動車道の高架橋脚の架設（昭和58年）



第7次漁業整備事業が着工となる大津漁港（昭和57年）



ニッ島陸橋が完成（昭和56年）



整備中の高萩磯原線汐見ヶ丘万作橋下（昭和55年）



区画整理された五浦地区住宅団地の分譲が始まる（昭和55年）



中郷地区の鉱害復旧事業が始まる（昭和51年）



市制施行20周年事業として市民体育館・市民プール・市民野球場・サッカー・ラグビー場が建設され、祝典が開かれた（昭和53年）



サッカー・ラグビー場（昭和53年）



体育館に併設された市民プール（昭和53年）



市民野球場（昭和55年）



完成した環境センターが稼働開始（昭和59年）



市保健センターが完成（昭和59年）



中郷浄水場が完成（昭和57年）



二ツ島雇用促進住宅が整備された（昭和52年）



高齢者の生きがいを支えるミニシルバー人材センターが発足（昭和59年）



観光客を火災から守る民宿婦人防火隊の訓練（昭和59年）



各地で活動する生活改善グループ同士が交流会（昭和51年）



農業後継者の婚活を目的とした「はばたく集い」（昭和59年）



青少年健全育成市民の会の発足に向けて支部の結成が進められた（昭和60年）



中郷町汐見ヶ丘地区で生活改善グループが青空市を開催（昭和58年）



関南小学校で結成された少年消防隊 (昭和56年)



素振りに励む上桜井野球少年団の団員たち。背景は旧中郷第一小学校 (昭和55年)



中郷第一小学校が移転。新校舎に引っ越しをする児童 (昭和56年)



B&G海洋センターのプール開き (昭和60年)



中学校の自転車通学にヘルメット着用が定着した (昭和55年)



児童数4人のうち3人が卒業し、小川小学校が閉校した (昭和59年)



夏休みのボーイスカウト活動風景 (昭和56年)

[昭和] 51年 → 60年 あの日あの時 1



全国植樹祭へのご参加に合わせ、茜平青少年の家をご訪問された昭和天皇、皇后両陛下（昭和51年）



昭和55年に完成した歴史民俗資料館前に、市制施行25周年事業として野口雨情像が建立された（昭和56年）

みんなの力をあわせて [1976-1985]



長浜海岸の風船爆弾放流地跡に「忘れじ平和の碑」を建立（昭和59年）



市内を巡回して図書を出し出す巡回文庫（移動図書館）がスタート（昭和54年）



市民球場でプロ野球イースタンリーグが行われた（昭和55年）



常磐線に特急ひたちが登場。磯原、大津港各駅にも停車（昭和60年）

[昭和] 51年 → 60年 あの日あの時2

みんなの力をあわせて [1976-1985]



消防救急緊急指令装置が消防本部に導入された (昭和57年)



誠之会病院で行われた消防署と病院消防隊合同の火災避難訓練 (昭和55年)



磯原駅前で行われていた交通安全市民の集い (昭和55年)



学校給食センターが稼働 (昭和57年)



「科学万博つくば'85」で北茨城市の日の開催され、260人の市民が参加 (昭和60年)



市議会定例会の風景 (昭和56年)



長野県中野市との姉妹都市提携調印式 (昭和55年)



# [昭和] 51 60年

みんなの力をあわせて  
[1976-1985]

昭和51年	3月	市制施行20周年記念式典挙行
	5月	第27回全国植樹祭でご来県の昭和天皇、皇后両陛下が、茜平青少年の家ほかをご訪問される
	11月	市制施行20周年事業として第1回市民まつり開催
	12月	北茨城市開発公社新庁舎完成
昭和52年	7月	大津の盆船流しが市指定文化財第1号になる
	8月	市制20周年事業として体育施設建設事業に着手
	9月	昭和16年以来の大災害、台風11号本市を襲う
	11月	声の広報配布開始
昭和53年	5月	市民体育館、市民プール、サッカー・ラグビー場が完成
	10月	磯原駅西土地区画整理事業に着手
	12月	休日、祝日の当番医制度開始
昭和54年	3月	大津の盆船流し行事が県指定文化財になる
	4月	北茨城市清掃センター操業開始
	5月	市長選挙執行、柴田章氏再選
	9月	巡回文庫（移動図書館）開始
昭和55年	3月	歴史民俗資料館（野口雨情記念館）完成
	4月	汐見ヶ丘近隣公園竣工
	5月	長野県中野市と姉妹都市提携
昭和56年	1月	二ツ島立体交差完成
	6月	市制25周年記念式典挙行 市民憲章、市の木・花・鳥を制定
	9月	市民号第10回記念として姉妹都市中野市訪問
昭和57年	3月	給食センター完成
	6月	中郷浄水場完成
	10月	名誉市民、片寄富七氏逝去に伴い市葬執行
昭和58年	4月	心身障害者福祉センター完成
	5月	市長選挙執行、柴田章氏三選
	6月	華川分水場と湯の網配水場完成。市北部への給水安定
	11月	環境センター完成
昭和59年	4月	保健センター完成
	6月	15年ぶりに人口5万人を突破
	10月	芸術鑑賞号始まる
昭和60年	5月	B&G海洋センタープール完成
	7月	「科学万博つくば'85」にて北茨城の日開催
	9月	中郷工業団地が分譲開始

# 整う生活基盤

[1986-1995]

昭和から平成に移り変わったこの時期、市役所が現在の場所に移転しました。昭和63年には常磐自動車道がいわき中央インターチェンジまで開通し、工業団地などの企業誘致が一層促進されることとなります。

またこの開通は、首都圏との時間的距離を一気に縮めることとなり、歴史民俗資料館の充実、磯原節全国大会の開催、平潟港温泉やガラス工房シリカの整備など、観光にも新たな展開をもたらしました。

市民生活では、市民ふれあいセンターや市立図書館の開館、雨情の里スポーツ広場の整備などのほか、港まつりや童謡の集い、親子ふれあいの旅などの行事も始まり、文化・スポーツ活動が充実していきました。

一方、昭和61年に氾濫し大水害をもたらした大北川の大規模な改修が進められたり、平成7年に発生した阪神淡路大震災を教訓として近隣自治体と災害時応援協定を締結するなど、防災にも力が注がれました。

[昭和] 61年 → [平成] 7年



常磐自動車道日立北—いわき中央間が全線開通し、多くの関係者らで完成を祝った (昭和63年)



平潟港温泉の通湯式が、関係者を招いて開かれた (平成5年)



高萩北茨城広域工業用水が中郷工業団地に通水開始 (平成元年)



新大北橋、八八橋で中郷町と磯原町を結ぶ市道高萩磯原線が完成 (平成元年)



磯原駅西口に位置する若宮橋が開通した (平成2年)



工事が進められてきた常磐道関南トンネルが貫通 (昭和61年)



県道日立いわき線の十石トンネルが開通 (平成7年)



中郷幼稚園（現在は中郷子どもの家）が石岡小学校の隣に移転（平成3年）



精華小学校に屋根つき相撲場がお目見え（昭和62年）



小学校入学を迎える子どもたちに、ランドセルの無料配布が始まった（平成3年）



市内初の学校プールが中郷第二小学校に完成（昭和62年）



第1回親子ふれあいの船に300人が参加し、北海道旅行を楽しんだ（平成4年）



関本第一小学校の新校舎が完成。オープンスペースで給食を食べる児童（昭和61年）



市民サービスの拠点となる北茨城市新庁舎が完成 (昭和62年)



豊田稔市長の初登庁 (平成2年)



新庁舎で初の市議会が開かれ、記念撮影する市議会議員 (昭和62年)



松崎龍夫市長の初登庁 (昭和61年)



村田省吾市長の初登庁 (平成7年)



名誉市民の功績を称え、胸像除幕式が開かれた (平成4年)



石炭火発立地に関する市議会市民公聴会 (平成4年)



台風21号で根古屋川が氾濫、家屋を濁流が襲った (平成3年)

台風10号による大雨で市内2,000世帯が浸水。田畑や河川、道路に大きな被害が出た (昭和61年)



台風13号の影響で大北川が決壊。住宅7棟が被害を受けた (平成元年)



長雨・低温で農作物に被害が発生 (昭和63年)



記録的冷夏でコメが全国的に不作。市農作物災害対策本部が設置された (平成5年)



阪神淡路大震災が発生。市職員救援隊を淡路島 (旧五色町・旧北淡町) に派遣 (平成7年)



市開発公社社屋を改修し市立図書館オープン (平成元年)



文化芸術活動の拠点、市民ふれあいセンターが完成 (平成元年)



大津漁村センター「ポートオオツ」が完成 (平成2年)



磯原町本町に市商工会館が完成 (昭和63年)



茜平にオープンしたガラス工房「シリカ」 (平成6年)



待合室が改修された磯原駅舎 (平成2年)



六角堂をイメージして改修された大津港駅舎 (平成2年)



「雨情の里トライアスロンin北茨城」開催。多くの参加者でにぎわった(平成4年)



第1回「雨情の里童謡のつどい」が開催された(平成元年)



市民まつりの会場を大津漁港に移して開催された第1回「雨情の里港まつり」(平成元年)



雨情をしのび「野口雨情没後50年祭」が開かれた(平成6年)



華川町に完成した「雨情の里スポーツ広場」(平成5年)





磯原高校3年の村田明文さんが、世界ジュニア・ウエイトリフティング世界大会52キロ級で優勝（平成2年）



花園神社磯出大祭が40年ぶりに行われた（平成2年）



中国遼寧省の沈陽体育大・大連医学院と友好交流調印（昭和62年）



歴史民俗資料館の入館者が100万人を突破した（平成4年）



海水浴場に登場した市救助艇シーガル号（平成4年）



いわき市沖のタンカー事故で重油が海岸に漂着。市民が回収作業をした（平成5年）



初代ミス北茨城が海開きに合わせ観光PR（昭和61年）



磯原駅前イメージアップフェスティバルが開かれ、大鍋料理がふるまわれた (平成3年)



市制30周年と市農協20周年を祝い開催された「ふるさとフェスティバル」 (昭和61年)



第1回「磯原節全国大会」が開かれた (昭和63年)



第1回「市民の森づくり植樹祭」で、下草刈りをする市民 (平成2年)



青年会議所主催の「花園川チャップチャブイカダ下り」 (平成6年)



磯原駅東口のまちなみ整備事業が完成し、からくり時計がお披露目された (平成5年)



常磐自動車道中郷サービスエリアの「ふるさとふれあいフェア」で、市の特産品をPR (平成3年)

昭和61年	8月	台風10号の大雨で2千世帯が浸水。田畑、河川、道路にも大きな被害
	11月	市長柴田章氏逝去に伴い市葬執行
	12月	市長選挙執行、松崎龍夫氏就任
昭和62年	2月	市制施行30周年記念式典挙行
	4月	県立北茨城養護学校開校
	10月	新市庁舎が完成
	11月	新市庁舎業務開始。同時にJR3駅内に市内サービスセンター窓口を開設
昭和63年	3月	常磐自動車道日立北-いわき中央間が開通
	4月	平潟漁港第三種漁港に昇格
	10月	第1回磯原節全国大会開催
平成元年	1月	裕仁天皇陛下の崩御に伴い1月8日から改元され、昭和から平成になる
	2月	第1回雨情の里童謡の集い開催
	4月	市立図書館開館 老人福祉センター、デイサービスセンター「ライト」完成
	11月	新大北橋、八八橋で中郷町と磯原町を結ぶ市道高萩磯原線が開通 第1回「雨情の里港まつり」開催 市民ふれあいセンター完成
平成2年	3月	大津漁村センター「ポートオオツ」完成
	5月	第1回市民の森づくり植樹祭開催
	11月	市長選挙執行、豊田稔氏就任
平成3年	10月	子ども模擬議会開催
平成4年	3月	名誉市民胸像除幕式挙行
	5月	歴史民俗資料館、入館者100万人突破
	7月	第1回親子ふれあいの船
	11月	磯原駅東まちなみ整備事業完成（からくり時計・公園）
平成5年	4月	雨情の里スポーツ広場完成 平潟港温泉通湯開始
	6月	いわき市沖タンカー事故の流出油、北茨城の海岸に漂着
	11月	五浦海岸六角堂周辺の侵食対策人工崖が完成
平成6年	3月	北茨城市国際交流協会が設立
	10月	雨情没後50年祭開催 ガラス工房「シリカ」オープン
	11月	市長選挙執行、豊田稔氏再選
平成7年	1月	「阪神淡路大震災」被災地へ北茨城市職員救援隊を派遣
	3月	「童謡の森ふれあいパーク」完成
	6月	市長選挙執行、村田省吾氏就任
	10月	十石トンネル開通
	11月	日立市、高萩市、北茨城市、十王町の災害相互応援協定締結

# 豊かさを求めて

[1996-2010]

磯原駅の新しい駅舎が完成し、先行して進められてきた駅西区画整理事業、駅東まちなみ整備事業と合わせて、周辺地域は「市の玄関口」として生まれ変わりました。

茨城県天心記念五浦美術館が開館し、マウントあかね、家族キャンプ村花園オートキャンプ場、中郷温泉通リゃんせなどもオープンして、観光分野の一層の充実が図られます。

文化面ではニュージーランド・ワイロア地区との友好交流が始まり、野口雨情生誕120周年事業などが行われました。

また、市民ニーズの多様化が進み、行政サービスにもこれまで以上の変化が求められるようになり、民間バス路線の撤退に伴う市内巡回バスの運行、ごみの減量化を目指したごみ処理の有料化、市営斎場やすらぎ聖苑の運営、公共下水道の運転などが開始されます。

平成18年には市制50周年を迎え、市民と行政の協力、協働の流れがより一層大きな波に変わっていきます。防犯パトロールやご近所声かけ隊、女性消防団の結成など、住民が主体となって社会に参加する姿が目に見える形となって現れるようになります。市民参加型のイベントも始められ、市民同士の一体感を醸成する機運が高まってきました。

[平成] 8年 → 22年



天心記念五浦美術館につながる都市計画道路の五浦海岸線が開通 (平成9年)



五浦の作家たちの業績を顕彰する県天心記念五浦美術館が大津町に開館。橋本昌県知事らがテープカットで祝った (平成9年)



常磐線磯原橋上駅と自由通路が完成した (平成9年)



整備が進む磯原駅西口付近 (平成10年)



明德小学校新校舎が完成 (平成16年)



市営の公園墓地として、整備された「泉沢霊園」(平成8年)



市営斎場「やすらぎ聖苑」が磯原町に完成した (平成10年)



完成した下桜井市営住宅1号棟 (平成10年)



平瀨小学校新校舎が完成 (平成8年)



出張所の統合により市民サービスセンターが拡充して業務開始 (平成15年)



北茨城浄化センター(下水道)が供用開始 (平成17年)



大津岬の突端から五浦海岸を望む場所に、「五浦岬公園」を整備（平成10年）



家族キャンプ村花園オートキャンプ場がオープン（平成9年）



華川町にオープンした公共の宿「マウントあかね」（平成12年）



中郷町に完成した「中郷温泉通りゃんせ」（平成11年）



子育て支援施設「大津子どもの家」がオープン（平成16年）



米蔵室に整備された市民の手づくり展望台（平成17年）



市内の小学校13校に計61台のパソコンを導入。キーボードを操作する富士ヶ丘小学校の児童たち (平成9年)



戸籍の電算化がスタート (平成17年)



市民の足となる市内巡回バスが本格運行 (平成15年)



子どもエコクラブのペットボトル回収PR (平成10年)



消防本部に緊急通信指令施設が完成 (平成13年)



市制施行40周年を祝う式典が開かれた (平成8年)



社会問題となったO157の予防研修が行われた (平成10年)



### 石井竜也さん 市へ愛唱歌贈る

木木クラブのカールスモーキー石井（石井竜也）さんから、市民が希望と誇りを持って「だれでも」「どこでも」「気軽に」愛唱でき、また、北茨城を離れていても「ふるさと北茨城」を思いだし口ずさめるようにと、市制施行40周年を記念して、北茨城市へ愛唱歌として『やさしい町』が贈られました。



やさしい町

作詞作曲 石井竜也  
編曲 金子隆博

1 ああ 海の青さよ  
多賀の山脈（やまなみ）よ  
ああ いつの日までも  
このままでありたい  
日射しの笑顔たち  
心が癒われるこの町  
ああ 時代（とき）の流れも  
立ち止まる時に

2 ああ 港の音が  
船かげを渡り  
ああ 緑がゆるる  
穏やかなせせらぎ  
やさしい声がする  
全てを忘れられる風景  
ああ ずっと変わらず  
いてほしいふるさと

日射しの笑顔たち  
心が癒われるこの町  
ああ 時代（とき）の流れも  
立ち止まる時に



本市出身の石井竜也さんから市に愛唱歌「やさしい町」が贈られた（平成8年）



常陸宮、同妃殿下がご来市。歴史民俗資料館をご訪問された（平成16年）



長野県中野市との姉妹都市締結20周年にちなんだ演奏会（平成12年）



ニュージーランド国ワイロア地区と国際親善友好都市提携（平成11年）



北茨城生涯学習フェスティバルが開かれた（平成12年）



北茨城市消防団に女性分団結成 (平成20年)



第1回「北茨城市民夏まつり」が開催された (平成20年)



市漁業歴史資料館「よう・そろー」が開南町にオープン (平成19年)



茨城の豊かな海づくり大会が大津漁港を会場に開催された (平成19年)



長野県中野市との交流30周年で行われたスポーツ少年団交流 (平成22年)



石岡第一発電所が国指定重要文化財に登録される (平成20年)



市道豊田・下駒木線が開通 (平成21年)



市民ふれあいセンター大ホールがリニューアルされ、記念講演会が開かれた (平成21年)



花園・水沼地区で携帯電話サービス開始 (平成19年)



中郷ふるさとコミュニティセンターが完成 (平成20年)



北茨城高と磯原高が統合し、磯原郷英高校が開校 (平成20年)



最後の卒業生を送り出し、北茨城高校が44年の歴史に幕を閉じた (平成22年)



中郷子どもの家がオープンし、子育て世代の交流の場に（平成22年）



第1回「石岡さくら祭り」が開かれ、市民が満開の桜を満喫（平成22年）



市役所本庁舎で日曜開庁スタート（平成19年）



小中学生を迎え子ども議会が開かれた（平成22年）

平成8年	3月	泉沢霊園が完成
	10月	市制施行40周年記念式典挙行
	11月	北茨城市女性連盟設立
平成9年	1月	石炭火力発電所の立地計画書が東京電力から提出される
	10月	JR常磐線磯原橋上駅・自由通路竣工
	11月	都市計画道路五浦海岸線開通 茨城県天心記念五浦美術館開館
平成10年	4月	五浦岬公園完成
	5月	常磐三市災害相互応援協定締結（いわき市、高萩市）
	7月	市営斎場「やすらぎ聖苑」完成
平成11年	4月	都市計画道路、神岡・五浦線開通
	5月	中郷温泉「通りゃんせ」オープン ニュージーランド国ワイロア地区と国際親善友好都市提携
	6月	市長選挙執行、村田省吾氏再選
平成12年	5月	「マウントあかね」オープン
平成13年	4月	防災コミュニティセンター完成
平成14年	3月	雨情誕生120年記念事業スタート（国際童謡フェスティバル） 平潟漁港の不発弾処理で193世帯が避難
	4月	花園地域交流センター「花園もーる」オープン
	7月	市内巡回バスの運行スタート
	8月	茨城高校総体開催（ロードレース）
平成15年	1月	JR3駅に市民サービスセンターを開設
	4月	ごみ処理有料化スタート
	6月	市長選挙執行、村田省吾氏再選
平成16年	3月	農山漁村交流促進特区認定 農家民宿やどぶろく製造の要件が緩和
	10月	常陸宮同妃両殿下ご来市
平成17年	6月	市道里親制度スタート、3団体が協定書に調印
	7月	小山ダム竣工式
	8月	地震・津波に備え、市内24カ所に半鐘を設置
	10月	公共下水道供用開始、浄化センターで通水式
平成18年	10月	市制施行50周年記念式典挙行
平成19年	5月	市漁業歴史資料館「よう・そろー」オープン
	6月	市長選挙執行、豊田稔氏就任
平成20年	4月	県立磯原郷英高等学校が開校
	8月	第1回市民夏まつりを磯原駅周辺で開催
	10月	消防団女性分団が誕生
	12月	石岡第一発電所が国指定重要文化財に登録
平成21年	3月	市道豊田・下駒木線開通
	10月	市役所本庁の日曜開庁開始
平成22年	3月	県立北茨城高等学校が閉校。44年の歴史に幕
	4月	第1回石岡さくら祭り開催

# 大震災に立ち向かう

[2011-2016]

2011（平成23）年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生します。震度6弱の激しい揺れの後、最大6.7mの津波が北茨城市を襲いました。この震災では、死者5名、行方不明者1名、関連死者5名の尊い生命が失われ、全半壊2,660戸、一部損壊6,059戸という家屋の被害をはじめ、港湾、道路、学校などの施設や六角堂、二ツ島などの観光資源にも大きな被害をもたらしました。翌12日に発生した福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の問題は、災害の影響をさらに複雑なものにしました。

この未曾有の大災害から、「元気！北茨城」を合言葉に市民が一体となった復興への歩みを始めて5年が経過し、北茨城市は60周年を迎えました。

この間、復興事業や原発事故の風評被害対策とともに、これからの未来につながる取り組みも着実に進められてきました。そのキーワードは「ひとの健康」「まちの健康」です。この両面から「健康都市づくり」を実現することこそ、住み慣れた地で健やかに安心して生活できる「新しい北茨城市」の創生につながっていくものです。

[平成] 23年 → 28年



太平洋沖で発生した地震による津波は、市内沿岸部に大きな爪あとを残した（大津港周辺、平成23年）



引き波が渦を巻く仁井田浜



高波が港を越え、流される漁船



津波が引いた後の国道6号磯原駅入口付近



津波は国道6号とその周辺まで押し寄せ、街並みを一変させた（二ツ島陸橋から）



震災発生当日、避難した市民は不安な一夜を過ごした（北茨城市役所）



津波に襲われ、家具や車などが折り重なった住宅地（平潟町）



岸壁に打ち上げられた漁船（大津町）



1階天井まで津波に飲まれた大津漁協。時計の針は震災発生時刻で止まった



地震でゆがんだJR常磐線の線路



津波により流失した六角堂



折れて使用不能となった大津の灯台





磯原町沿岸部の避難所となった市民体育館。避難所数は一時20カ所にまで拡大し、最大で5,100人が身を寄せた



被害のお見舞いのためご来市された天皇、皇后両陛下



福島県側から県内に入る避難者のスクリーニングテストをする職員ら（歴史民俗資料館）



震災後の対応を進めた災害対策本部会議



食料品や生活用品などの支援物資を手渡すボランティア（大津町）



被災して間もない3月末、大津小学校で卒業式が行われた（平成23年）



磯原駅西口に設置された放射能対策プラザ。放射線測定器の貸し出しを始めた（平成23年）



クリスマス期間中、大津漁港で行われたパトゥ・ノエル。「希望の船出」をイメージして、ライトアップされた漁船が夕闇の港を彩った（平成23年）



市と市観光協会が宇都宮市の商店街にアンテナショップを出店（平成23年）



北茨城市水産業復興委員会が発足した（平成24年）



北茨城市の復興支援にかかる4者による包括的提携協定が結ばれた（平成24年）



震災復興計画策定委員会から復興計画案が答申された。この計画をもとに、復興のまちづくりが始まる（平成24年）

北茨城市復興事業計画（平成28年2月）



65団体と災害時相互応援協定を締結。震災を契機に自治体や各種団体との協力体制づくりが進められている（平成25年）



津波で流失した六角堂が茨城大学によって再建され、一般公開が始まった（平成24年）



震災復興支援展覧会「生誕110周年記念 ウォルト・ディズニー展」が、県天心記念五浦美術館で開幕。52日間の入場者は約11万人を超えた（平成24年）



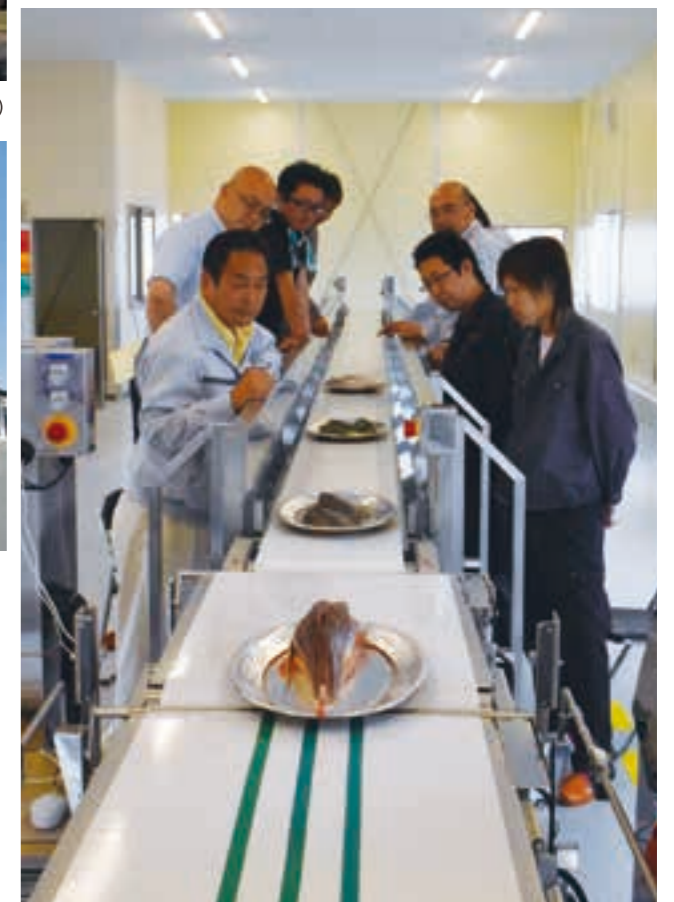
情報を市民に伝える防災行政無線の整備が進められた（平成25年）



津波で被害を受けていた市漁業歴史資料館「よう・そろー」がリニューアルオープン（平成25年）



震災発生から約2年ぶりに大津町でシラス漁が再開（平成25年）



大津漁港内に非破壊放射能測定施設が完成した（平成26年）



大津町の高台に設けられた展望慰霊塔の前で、祈りの碑を除幕する子どもたち (平成26年)



復興を願い震災後初の御船祭が開催された (平成26年)



JR常磐線磯原駅に北茨城市観光案内所を開設 (平成27年)



築地市場まつり「鍋グランプリ」で、あんこう鍋がグランプリ(平成26年)



廃棄物の減量と資源化の促進により環境保全を図る「廃棄物と環境を考える協議会」が発足 (平成25年)



### 市民病院

平成26年11月に開院した市民病院は、県北部の中核病院として市民の生命と健康を守り、医療の質的向上の推進と地域に即した医療を提供しています。

### 家庭医療センター

平成27年6月に開所した家庭医療センターは、地域医療を推進するモデル診療所として在宅医療の実践並びに総合診療専門医および家庭医の教育施設としての役割を担っています。



### テニスコート

平成31年に開催される「いきいき茨城ゆめ国体ソフトテニス競技会」に向けて16面のテニスコートを整備します。国体後も、数多くの大会誘致や健康増進事業を積極的に行い、北茨城市のスポーツ拠点として活用していきます。



# ひとの健康

## 安心できる暮らしを全力サポート

北茨城市民病院と附属家庭医療センターが核となり、「保健・医療・福祉サービス」を包括的に提供する体制づくりを進めます。子どもから高齢者まで、誰もが健やかに、安心して生活できるよう、さまざまな機関や専門家が連携する仕組みにより、市民の生命と健康を守るための施策に最優先で取り組みます。

# まちの健康

## 充実した生活基盤で豊かな毎日を

人が集い、人を育むのは「まち」です。人口減少という大きな課題に直面する中で、まちを元気にするための地域活性化策に知恵を絞り、道路や施設などのインフラ整備を進めていく必要があります。地方創生に欠かせないのは、まちの活力。豊かな自然環境を守りながら、未来につながる新しい北茨城を目指します。



### 国道6号勿来バイパス

平成27年度に事業化が決定した国道6号勿来バイパスは、渋滞緩和や事故防止のほか、地域医療や観光面での連携、災害時の避難や救援活動にも大きな効果が期待されています。

### 消防庁舎

消防本部は平成28年2月に高台の新庁舎に移転。消防署と北部分署が統合して体制が強化されました。また、市の中心部に位置することで各所への迅速な出動が確保されています。



### 関本小中学校

小中学校の統合・再編により、義務教育の9年間を見通し継続的で一貫性のある教育活動を行い、児童生徒の個性や能力を伸ばす教育を目的とした関本小中学校（通称）が平成28年4月に開校します。



### 市立図書館

平成28年6月開館予定。野口雨情の「シャボン玉」をイメージした開放的な館内に、カフェを併設。開館時の蔵書数は15万冊（収納能力21万冊）、CD・DVD2,000点となります。屋上は災害時の一時避難所としても機能します。



平成23年	3月	東日本大震災発生。震度6弱の激しい揺れと津波により、未曾有の大災害をもたらす
	4月	天皇、皇后両陛下がご来市。震災被害のご視察と避難者を見舞われる
	5月	「きたいばらき元気市」がサッカー・ラグビー場で開催される
	6月	市長選挙執行、豊田稔市長が再選
	12月	磯原駅西に放射能対策プラザ開設。放射線量測定器の貸し出しと食品の放射能測定を開始
平成24年	2月	北茨城市復興計画策定委員会が復興計画案と提言書を市長に答申
	4月	五浦六角堂が茨城大学により再建され、4月28日から一般公開が再開される 震災記録写真集「明日を信じて 元気! 北茨城」を発行
	5月	北茨城市水産業復興委員会が発足
	7月	大津港駅前に観光案内所「びすとれ」開設
	8月	震災復興支援展覧会「生誕110周年ウォルト・ディズニー展」が県天心記念五浦美術館で開催
平成25年	10月	映画「天心」を支援する会が発足
	3月	防災行政無線（51カ所）設置完了 北茨城市のイメージキャラクターが決定
	4月	高速バス北茨城インター停留所経由運行開始 磯原駅前交番運用開始
	7月	廃棄物と環境を考える協議会加盟団体（1都5県65市町村）と災害時相互応援協定締結 漁業歴史資料館「よう・そろー」リニューアルオープン
	11月	PR動画「恋するフォーチュンクッキー北茨城バージョン」制作・公開
平成26年	3月	防災メール配信サービス開始 「杉良太郎&仲間の皆さんによる復興支援チャリティーコンサート」開催 五浦岬公園展望慰霊塔完成 平潟、大津、中郷の災害公営住宅入居開始
	5月	常陸大津の御船祭。東日本大震災後、復興を祈願して初の開催
	6月	大津漁港内に非破壊放射能検査施設が完成
	10月	第1回全国あんこうサミット開催
	11月	北茨城市民病院が開院 築地市場鍋グランプリで、北茨城のあんこう鍋がグランプリを獲得
平成27年	3月	磯原駅に「北茨城観光案内所」開所
	4月	2019茨城国体準備委員会が発足
	5月	市長選挙執行、豊田稔市長が再選
	6月	市民病院附属家庭医療センターが中郷町に完成し診療開始
	7月	市制60周年記念プレミアム商品券販売開始
平成28年	10月	マイナンバー制度がスタート
	2月	北茨城市消防本部、消防署が新庁舎へ移転
	3月	市制施行60周年記念式典挙行政





# ふるさとの 60年

インタビュー  
小中学生の作文より



## 「夢のある教育」で一人ひとりの個性を伸ばす。

北茨城市教育委員会  
教育長 松崎 三郎さん

東日本大震災が発生したのは、ちょうど小学生の下校時間でした。海岸地区の子どもたちもいるのですが、校庭でとどまってもらい、一人も事故に遭わずに済みました。津波が来たのが下校後でなかったことが、本当に幸いだったと思います。

北茨城市は昭和40年前半に炭鉱が閉山になり、1,000人規模だった学校がいきなり200人ほどに減少しました。北茨城の市民は自分たちの暮らす地域に愛着があり「おらが学校」という意識が強く、児童・生徒数が少ないなりに地域に密着して学校を維持してきました。

現在は急激な少子化が問題になり、市最北の富士ヶ丘小学校は全校の児童数が17名となっています。市教育委員会では学校統廃合を担当する組織を作り、学校再編について各地区に説明に歩いています。そ

の中で市民から要望があったのは、「統合だけでなく夢のある教育をしてほしい」ということでした。夢のある教育を実現するために、望ましい学校のあり方を検討し、平成28年度に関本第一小学校、富士ヶ丘小学校、関本中学校を集約し、茨城県で3校目となる、施設一体型の中小一貫校を設置することになりました。

また平成22年度に、北茨城のこれからの10年計画を策定し、中学校を現在の5校から4校に、小学校を12校から9校にすることを検討し、中郷・磯原・大津・関本・華川の5地区で説明会を行いました。地域住民にとって、学校が消えるということは文化が消えることであり、学校は地域のよりどころになってきたことを改めて実感いたしました。

北茨城市の学校教育が目指すのは、日本だけでなく世界を見据え国際社会で生きられる人づくり、社会で自立できる児童・生徒の育成です。未来を担う一人ひとりの児童・生徒の個性に対応した教育を実践しています。

特色ある取り組みとしては、毎年11月に子ども議会を開催しています。これは模擬会議ではなく本会議で、中学生が議長・副議長を務め、小学校5年生から中学2年生までが議員として質問を行い、市長も出席します。議題に関して市の各課で答弁書を作成し、通学路の街灯設置や、自転車置き場の整備など、実現できるものは実現させてきました。

市制施行60周年を迎え、「子どもは日本、北茨城を担うのだから、大事にしないでほならない」という豊田市長の思いを施策に反映させ、さらなる10年を目指して職員一丸となって教育の充実に取り組んでいきます。

### プロフィール：

昭和28年生まれ。昭和51年平潟小学校に教員として新規採用され、小学校長、市教育委員会学校教育課長を経て、平成21年55歳の時に当時県内で最年少の教育長に就任し、現在で7年目。

## 商工業者が手を取り合いまちを元気に。

北茨城市商工会  
会長 大森 廣幸さん

国内有数の石炭産出地であった常磐炭田。福島県富岡町から日立市北部までの太平洋沿岸に多くの炭鉱が点在し、北茨城市も炭鉱のまちとして繁華街に多くの店や施設が充実して栄えました。しかし昭和30年代に入り、日本のエネルギー需要は石炭から石油へと転換します。各地で鉱山の閉山が相次ぎ、北茨城市の基幹産業だった炭鉱の灯が消えたことは、まちの商工業に大きく影響しました。

その間、工業団地や住宅団地が造成され、深刻だった人口減少に歯止めがかかります。しかし、生活スタイルの変化やモータリゼーションの進展を背景に、人々が消費する場所は、まちの商店街から郊外型の大型ショッピングセンターへと移っていきました。最盛期は市内に7つあった商店街は、今では3つに減っています。

高齢化や人口減少に直面しているのは、北茨城市だけではないでしょう。商工会としても、魅力あるまちづくりを目指して、空き店舗対策や地域振興券の活用、商店街の活性化など、地域の方たちのお力を借りながら、様々な対策を講じてきました。

一方では、中心市街地の空洞化によって、交通手段のない高齢者は日々の生活に困っています。そのため4年前から、市の協力を得て、移動販売をする「行商サービス」を始めました。現在でも週3日、市内各地を野菜や果物、魚などの食料品や日用品をトラックに積んで巡回しており、高齢者が外出する機会を設けることで安否確認を兼ねています。

ふるさととは人間の原点だと思っています。生まれ育った場所が魅力的であれば、若者のUターン促進や後継者の育成にもつながるはずです。若者たちの受け皿となる働く場の確保も、今後の課題となってきます。

誰もが安心して暮らせる元気な北茨城市を目指して、行政があらゆる分野で環境整備を進めています。商工会でも、まちの特徴である漁業の6次産業化をはじめ、地域資源を活用した特産品作りや観光開発を目的としたまちおこしなど、地域の方たちと手を取り合って前に進んでいくしかありません。すぐに思った通りの結果につながらなくても、知恵を出し合い、提案し続けていくことが大切だと考えています。



### プロフィール：

有限会社ダイトク代表取締役。平成24年6月1日から現職。



## 歴史を受け継ぎ 地域の発展と 安全を祈願。

大津港唐帰山鎮座 佐波波地祇神社  
宮司 伊藤 禎朗さん

佐波波地祇神社は、今から1200年ほど前の平安時代に創建されたといわれています。昨年、先代の父が他界し、その由緒ある神社の宮司という務めを受け継ぐことになりました。日々重責を感じながらも父の姿を思い浮かべ、少しでも尊敬する父に近づける宮司でありたいと、引き締まる思いで務めています。

ここは眼下に太平洋の大海原が見える絶景を有する場所で、近くの大津港は江戸時代より平潟港と並び水戸藩有数の港として栄えてきました。今日に至るまで漁業を中心に発展してきた地域ですから、この神社は漁師たちの生活の中で重要な役割を果たしてきたといえます。大自然と向き合い命を懸けて働く漁師たち、そしてその家族にとって心の支えになってきたに違いありません。こうした背景から、この神社では5年に一度、5月に常陸大津の御船祭が盛大に行われ、海上安全、大漁祈願の海の行事と、氏子の家内安全を祈願する行事として親しまれてきました。御輿を乗せた神船が大勢の曳き手によって町中を練り歩くという、見ごたえのある勇壮な祭りです。江戸初期に現在の形となったとされますが、過去には資金難や戦禍などの様々な理由で途絶えた時期もあったと聞きます。平成23年の東日本大震災でも大きな被害を受け、御船祭も危ぶまれましたが、苦難を乗り越え、平成26年に予定通り行うことができたことは、氏子皆様のお力添えのお陰だと、父も感謝しておりました。

震災時、高台にある当神社には、難を逃れたり、海の様子を見に来たりする人の姿がありました。近くの小学校が避難所でしたので、一時的でしたがここに集まった人たちが励まし合いながら、不安な日々を過ごしたことが思い出されます。ここは高台のため津波の難は逃れたものの、鳥居、神輿殿、狛犬、燈籠、石碑など多くものが損傷を受けました。現在は本殿装飾、拝殿内の一部を除き、大部分が修復に至りましたが、皆様が安心してご参拝いただけるよう残りの部分の修復についても迅速に進めている次第です。

小中学校の教師だった父は、神事に関する深い知識に精通していました。厳しい一面もありましたが、地域の方々から親しまれ、頼られる存在でした。私もさらに勉強を重ね、歴史ある神社の名に恥じない宮司として精進し、成長していきたいと思えます。そして、地域の皆様の心のよりどころとなる神社の伝統を守り、地域の発展と安全を祈願し続けてまいります。

### プロフィール：

昭和45年生まれ。国学院大学卒業後、笠間稲荷神社に奉職。平成18年佐波波地祇神社に戻り、同27年宮司に就く。

## 伝統ある御船祭を 後世に継承していきたい。

常陸大津の御船祭保存会  
会長 山形 義勝さん

大津町に鎮座する佐波波地祇神社の例大祭として、5年に一度開催される御船祭は、大漁と海上安全を祈るお祭りで国選択無形民俗文化財です。神船は長さ15メートル、幅4メートル、高さ3メートル、総トン数5トンの船に屋形を組み、神輿を乗せ、宮司、渡御歌を奏上する歌子や囃子方が約60人乗り込みます。神船には長さ200メートルの綱を結び、船底に「そろばん」と呼ばれる井桁状に組んだ木枠を進行方向に敷きながら、約300人の引き手と約50人の船を揺らすゆすり手の動きが一体となり陸上渡御する勇壮な祭りで、御船祭保存会が継承しています。

その御船祭保存会の当時の会長が、東日本大震災から半年後に亡くなりました。平成26年の5月には例大祭があるので次の会長を決めなくてはならず、私の元に当時、浜の復興に尽力されていた保存会名誉会長の豊田市長や漁協の鈴木組合長がいらして会長職を頼まれたのです。私は町内の総代でしたが、震災時まで現役で船に乗っていたので、御船祭には参加しても祭りの世話人をやったこともありませんでしたが、町のためになればという思いで引き受けました。

御船祭の船は北茨城市漁業歴史資料館「よう・そろー」に展示保管してあったのですが、震災の津波の被害で船が傷んでいたのです。さらに船だけではなく、お祭りの備品の提灯や旗、船を引くロープもそろばんも大半は津波で流され、残ったものは使い物にならない状態でした。最も頭を痛めたのは、船を修理する船大工が地元になかったことです。気仙沼や八戸まで船大工を探して知り合いの造船所を当たり、いわき市の江名でやっと見つけて船を修理してもらいました。事務局や世話人の方々に大変助けていただき、祭りを復活させることができたのです。

盆と正月に帰らない若者たちも、御船祭には帰ってきます。担ぎ手募集にも多くの方が集まり、地元の人々にとって非常に愛着のある祭りなのです。まちの人が楽しみにしている祭りを継承するためには、次の祭りまでの5年間の維持、体制づくりが重要だと考えています。市制施行60周年を契機に、さらに御船祭の伝統を守っていくために若い人に、どんどん世話人になってもらいたいです。平成31年の本祭に向けて、次の世代に引き継いでいきたいと思っています。



### プロフィール：

昭和23年生まれ。平成23年5月、常陸大津の御船祭保存会会長に就任。家業は巻き網漁で3代目。丸成漁業㈱代表、第十一海栄丸船主。



## 新たなスタートを切り、 基幹産業として一層前進。

大津漁業協同組合

代表理事組合長 鈴木 将之さん

大津の漁業の特徴は、沖合で船団で行うイワシやサバなどの巻き網漁、小型船のヒラメやアンコウなどの底引き漁、沿岸の引き網漁によるシラス漁が行われていることです。昭和の時代には、巻き網漁でイワシが1日2,000トン水揚げされましたが、平成になってからは資源を守るために漁の時間や量を規制していますから1日350トンほどの水揚げです。日本ほど、資源を保存・管理しながら漁をしている国はないのです。

震災前までの漁港に整備するのに50年かかりました。10次まで5年ごとの整備計画によって完成した港が、東日本大震災の津波で一瞬にして全て流されたのです。津波は地震発生から30分で大津漁港に到達し、最大6メートルの高さまで来ましたが、それまでも何度か津波は来ましたが、今回の津波は比べようもないものでした。大津漁港は沖の堤防があり、二重堤防で静穏度はトップレベルなのですが、1トン船はほとんど流されてしまいました。

地震が発生したのは、ちょうど競りの時間で、市場で多くの人が働いており、「津波が来るから逃げろ」と指示を出し避難させました。津波は30分ごとに押し寄せ、3波まで大きな津波でしたが、その第1波で漁協は水没しました。私は震災直後から、水戸や東京の関係機関に市長と共に出向くなど今後の対応に奔走しました。東日本大震災での茨城県の港湾被害は210億円に上りましたが、そのうちの110億円は北茨城なのです。未曾有の災害であったにもかかわらず、北茨城は忘れられた被災地のようでした。

やりきれない思いでいた震災から1カ月後に、天皇皇后両陛下が北茨城をご訪問くださいました。長さ150メートルにわたり決壊した防波堤や打ち上げられた漁船など、被災状況を説明させていただき、両陛下は、流された行方不明者がいると聞くと、沖合に向かって黙礼されました。大変感動したできごとで、復興の大きな励みになりました。

現在も福島県での漁は規制されており、小型船漁は復活できないでいます。しかし、組合員は震災後3年間で5隻の大型巻き網船を新造し、大型運搬船との船団で盛んに漁を行っています。津波に流された市場と製氷工場も、復興事業として市の補助金で建設され、岸壁は県と国の事業により整備されました。大津漁協も新たなスタートを切れましたので、市制施行60周年を迎え、市の基幹産業として一層頑張っ

### プロフィール：

昭和18年生まれ。大津漁業協同組合長に就任して4期12年目。昭和52年まで船に乗っていたが退任し、現在は息子が社長兼漁労長として大型巻き網船第六福栄丸を操業。

## 地域の農業を守り、 安心して暮らせる社会を。

北茨城市農業委員会

会長 木村 早苗さん

北茨城市は海と山に包まれ、四季折々の自然が美しいところです。その豊かな大地を生かし、漁業と並んで農業も発展してきました。広大な土地に米や野菜を生産する専業農家もいれば、サラリーマンの兼業農家も少なくありません。

私は大学卒業後、種苗メーカーの会社に就職し、その後25歳の時に実家に戻り、現在に至るまで40年間農業に携わっています。当初はそれまで学んできたことを生かし、この地域ではあまり開拓されていなかった花業を始めることにしました。父は米や野菜を作っていましたが、一本に絞るよりも様々な分野の農作物を生産する方が将来的に安定していると考えたからでした。ビニールハウスの設置など設備投資を図り、事業を軌道に乗せることに努めました。時代と共に栽培する花の種類は変わってきていますが、生産コストなどを考慮し、今は年間30種類ほどを出荷しています。そのほかに、先代から受け継いでいる水田の生産にも力を入れています。恵まれた土壌で栽培する米はおいしく、その評判を聞いて直接買いに来て下さるお客様も少しずつ増えているのはありがたいことです。

5年ほど前から北茨城市農業委員会の会長を務めさせていただいています。大切な責任を担い、業務に追われる日々を過ごしていますが、振り返ると平成23年の東日本大震災は大きな試練だったと感じています。市内の関連施設の被害は少なかったものの、水田が液状化し、どこから手をつけていいかわからない状況でした。市の行政の的確で迅速な対応がなかったら大変な事態になっていたと思いますが、市の援助により早い復旧を進めることができ、本当に助けられました。大きな痛手は風評被害でした。こういう時こそ生産者同志、力を合わせて頑張ろうと励まし合い、辛い状況をなんとか乗り越えることができたと思います。

後継者や雇用の問題、T P Pへの対応など、今後の課題に取り組みつつ、流通の拡大を図ること、稲W C Sや飼料米の水田有効利用など、安定した基盤を構築することも選択肢の一つとして考えていかなければなりません。地域の農業を守ることは、安心して暮らせる社会をつくることにつながります。先祖から受け継いだ貴重な財産である恵まれた大地をどう生かすかは、私たちに託された務めです。そのことと真摯に向き合い、将来の明るい展望を見つめて農業の発展に尽力していきたいと思っています。



### プロフィール：

昭和25年生まれ。サカタ種苗(株)勤務を経て、実家の農業に従事。平成23年北茨城市農業委員会会長に就任。



## 温かい人柄は、 どこにも負けない観光資源。

五浦観光ホテル

女将 村田 和華子さん

当館は1936年に創業し、今年80周年を迎えます。周辺の炭鉱産業が全盛期を迎えた戦後は、企業のご接待で利用されることが多かったそうです。その後、高度経済成長の波に乗って観光やレジャー産業が注目されるようになり、団体旅行が各地で盛んになるのを受けて1957年、別館「大観荘」をオープンしました。

北茨城の中でも、五浦は岡倉天心が居を構え、日本美術院を移転させたことに象徴されるよう、近代美術の黎明の地として芸術的、文化的な価値を発信し続けてきました。この地にある旅館としても、たくさんの方々にそれを伝えていく使命があると自負しています。

嫁いでからずっと、地元の方たちの気持ちの温かさに感謝してきました。東日本大震災を機に、その思いをさらに強くしました。津波や地震で誰もが被害を受けたにもかかわらず、すぐに避難所へボランティア活動に集まってきたのです。市民の方々の結束の強さ、面倒見の良さに胸が熱くなり、私たちも社員一同頑張ろうという気持ちで共に炊き出しをしました。この体験が震災後の営業再開へ向かう原動力となり、励みとなりました。

北茨城には風光明媚な景色、天心や横山大観、野口雨情に代表される質の高い芸術文化、太平洋からの恵みなど多くの観光資源がありますが、ここに暮らす人たちの温かな人柄もまた、どこにも負けない観光資源だと強く感じています。

お客様との出会いは財産です。創業した祖父の代から4世代でご利用下さる常連様もいらっしゃいます。当館がお客様にとって集い、絆を深める場、思い出の地となることは、言葉に尽くせないほど有り難いです。人生の節目節目にお越しいただきますと、お客様の家族の歴史に寄り添っているようでとても嬉しく、と同時に身の引き締まる思いがします。

和食がユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、食をはじめ装い、年中行事など、日本の暮らしには四季が根付いています。旅館でのおもてなしには日本文化が凝縮されており、茶道や華道の知識も含めて、お客様の期待を裏切ることがないよう努めています。時に海外からのゲストもお越しになります。この地の強みを生かし、日本ならではの宿、北茨城でしか体験し得ない旅を提供し、旅館の魅力を感じていただけたらと思います。これから先もずっと、一人ひとりの思い出の中に、美しい五浦の景色が刻まれていくことを願っています。

### プロフィール：

大子町生まれ。日本航空、国際線乗務後、1991年結婚を機に同ホテル若女将に。海外からの観光客に対しても、北茨城市の魅力伝えていく。

## 芸術文化の土壌が 北茨城の大きな財産です。

北茨城市文化協会

会長 池田 勝雄さん

北茨城市文化協会は、美文（美術・文芸）・芸能活動を行っている市内26団体により、昭和54年に発足しました。当初は美文は書道、工芸、陶芸、詩、俳句、短歌などで、芸能は民謡、能、民舞などの団体でした。それまで各団体が単独で行っていた展覧会や発表会を、協会主催で開催するようになり、現在は茨城県天心記念五浦美術館で市美術文芸展覧会、市民ふれあいセンターで市芸能発表会や磯原節大会などを開催しています。

北茨城市は、野口雨情、岡倉天心、横山大観、菱田春草、飛田周山などにゆかりのある地で、芸術文化の土壌があり、それが市の大きな財産です。芸術文化に関心を持つ市民も多く、市でも芸術文化活動の支援に積極的に取り組み、昭和60年から市の無料バスで東京等で一流の芸術を観賞する「芸術鑑賞号」がスタートしました。日展などの美術展や劇団四季や宝塚歌劇団のミュージカル、盆栽展など、市民の要望を聞きながら実施してきました。定員は40名でチケット代のみ参加者負担の芸術鑑賞号は毎回好評で、年6回開催していました。5年前からは都内などに出かけるのは年2回で、年1回は落語家に来ていただいてふれあいセンターで寄席を開催し、さらに多くの市民に芸術文化に親しんでもらえるようになりました。また、野口雨情のお孫さんで、野口雨情生家・資料館長である野口不二子さんも、童謡や本に親しむ活動に取り組まれています。さらに市には磯原雨情会があり、子どもたちも詩を作ったり、雨情の童謡を歌う活動をしています。

北茨城の文化を育てようと、市では野口雨情関係、芸術、芸能に力を注いでいます。北茨城市文化協会は市民の創作活動を盛り上げるのが役目ですが、会員が年々高齢化してきています。市制施行60周年を迎え、今後は小学生から20歳前後の若い世代、そして芸術文化が生涯の生きがいづくりにつながる40代、50代の方に活動に参加してもらえる組織づくりをしていきたいと考えています。そのためには拠点づくりが必要なので、統廃合により空き教室になった学校を活用していくことを検討しています。そこに行けば、いつでも誰でも活動できるという場をつくりたいのです。さらに、良い作品を見ることも大切ですから、芸術鑑賞で本物を見て目の肥やしにすることも継続させたいです。また、五浦美術館や雨情記念館をもっと活用し、芸術文化を市民に身近なものにしていきたいと思っています。

北茨城の文化を育てようと、市では野口雨情関係、芸術、芸能に力を注いでいます。北茨城市文化協会は市民の創作活動を盛り上げるのが役目ですが、会員が年々高齢化してきています。市制施行60周年を迎え、今後は小学生から20歳前後の若い世代、そして芸術文化が生涯の生きがいづくりにつながる40代、50代の方に活動に参加してもらえる組織づくりをしていきたいと考えています。そのためには拠点づくりが必要なので、統廃合により空き教室になった学校を活用していくことを検討しています。そこに行けば、いつでも誰でも活動できるという場をつくりたいのです。さらに、良い作品を見ることも大切ですから、芸術鑑賞で本物を見て目の肥やしにすることも継続させたいです。また、五浦美術館や雨情記念館をもっと活用し、芸術文化を市民に身近なものにしていきたいと思っています。



### プロフィール：

昭和18年生まれ。昭和42年、中学校教員として北茨城市に赴任。平成16年同市立明德小学校校長で退職。平成27年4月に北茨城市文化協会会長に就任。

## 地域の防災力を高め、安全・安心につなげたい。

北茨城市消防団  
団長 飛田 和義さん

北茨城市消防団は各地区にある19分団と女性分団の計20分団で活動しています。各分団で日頃から、消防ポンプ自動車などの装備の点検と整備、訓練活動などを継続的に行い、災害時に備えてきました。そうした中でも、東日本大震災による津波は私たちの想像をはるかに上回り、沿岸部を中心に甚大な被害をもたらしたのです。

消防団では地震発生を受けて、ただちに管轄する地域の警戒と津波の広報に当たりました。私たち幹部は消防本部にかけつけ、無線を通じて各分団車両に指示を出しました。団員は消防ポンプ自動車で各地区をくまなく走り、消防ポンプ自動車に搭載されている拡声器で、津波警報を広報して避難を呼びかけると共に、逃げ遅れた住民はいないか、救助の必要はないか確認して回りました。

津波が引いた後は、取り残された住民を高台にある避難所まで誘導したり、負傷者を救護したり、避難所では発電機による電源を確保するなど、次々に対応。さらに、山積みになったがれきの撤去作業では、被害の少ない山間部の分団の協力を得ながら皆が結束して作業を進めました。

震災を機に防災無線が市内全域に設置され、消防本部の庁舎も高台に移転することになりました。市の防災対策が充実すると並行して、行政に頼るばかりでなく、個人々の防災意識も高まってきたようです。各地域で自主防災会を立ち上げる動きが盛り上がり、「地域コミュニティは自分たちで守る」といった考え方が広がってきていると感じます。

私たち消防団でも、震災をきっかけに、防災活動がいかに幅広いものであるか、そして地域住民との日常からの密着した関係性が重要であるかを実感しました。市内には現在、約470人の団員がおります。団員が高齢化したり、人口減少で若い団員の確保が難しくなるなど、これからの課題は残っています。

震災時における団員の積極的な活動は、多くの住民に深く浸透したのではないのでしょうか。災害を教訓に地域防災力を高め、将来に引き継いでいくためにも、消防団が住民と密にコミュニケーションを取りながら、まち全体の防災意識の醸成に貢献していけたらと思います。



### プロフィール：

昭和22年生まれ。昭和46年、市消防団第4分団員に任命され、平成20年4月から現職。長年にわたる消防団活動への貢献に対し、同22年に藍綬褒章、同24年に県知事から永年勤続40年の表彰を受ける。

## 炭鉱と共に歩み、閉山を見届ける。

元常磐炭鉱茨城鉱業所神ノ山坑労務係長  
佐藤 宗夫さん

高校時代から将来の職業として、法律を基点とした労務管理という明確な目標がありました。その目標に沿って大学を選び、卒業後は父が常磐炭鉱に勤務していた関係もあり、迷うことなく常磐炭鉱に入社しました。

入社後は、文系であっても坑内で石炭を採掘する現場を知らなければ企業の真髄は分からない、という考え方から6カ月の現場実習を体験します。地上では考えられない暑熱で、特に常磐炭業所の坑内は、5分労働して5分水風呂につかる過酷な作業でした。実習後は経理実習を経て、茨城炭業所に転勤となり、念願の労務の仕事に就きました。

現場労務の重要な仕事といえば入坑率の確保です。当時、石炭を掘削するのは機械よりも人間に頼る人海戦術でしたから、人間が入坑しなければ石炭が掘れず、いかに入坑を促進するかが最大の課題でした。その他にも、狭い坑内で無理な姿勢で働く従業員の健康管理はもちろんのこと、命に関わる事故の発生防止の在り方など、大変な腐心の連続です。自宅に社内電話が設置され、外部に出向する場合も移動先を連絡しておかねばならず、気の休まる時間はありませんでした。

1960年代に入ると、エネルギー革命として、「固形エネルギーから流体エネルギーへの転換」、いわゆる「石炭から石油時代」に突入します。石炭の需要はどんどん減少し、閉山の陰りが見え始めると、離職希望者が出てきて、それを食い止めることに神経をすり減らしました。最後の閉山となってからは、職業安定所の支援を受けて再就職対策に奔走しました。

炭鉱の全盛時代には、北茨城市の人口の5人に1人は常磐炭鉱の家族と言われていたことを記憶しています。この地域の人々の暮らしは炭鉱と共にあり、華やかな時代があった一方、終わりも体験しました。共に働いた従業員たちが妻子ともども、まちを去っていく姿には、かなりのさびしさを感じたものです。

閉山後は常磐炭鉱とマックスとの合併会社を立ち上げ働きました。現在は、高齢・障害・求職者雇用支援機構茨城支部で高齢者雇用アドバイザーをしています。長年、労務畑を歩んできて考えることは、人間は情熱が大事であること。本気になって仕事をすれば相手にも理解され、やがて信頼関係が生まれるということです。炭鉱で実に多くの人に会いました。そのときの経験が今も生きております。



### プロフィール：

昭和8年福島県生まれ。中央大法科卒。同33年に常磐炭鉱に入社し、同35年から茨城炭業所に移る。同46年、神ノ山坑閉山により翌年から常磐マックス取締役工場長、同代表取締役を歴任。退職後、翔洋学園高等学校理事長を歴任。

## 北茨城の好きなところ

中郷第一小学校五年  
小室 奏音



私は北茨城が好きです。北茨城は、世界遺産があるような有名な場所ではありませんが、いいところがたくさんあります。

まず北茨城は、海や山など美しい自然に囲まれたところです。小さいころは、広い公園を思い切りかけまわったり、どんぐりや落ち葉を拾ったりしてよく遊びました。私は、北茨城のこの自然で育ちました。最近では、テレビで環境破壊や地球温暖化についてのニュースを目にすることも多くなりました。そういうニュースを見るたび、建物も多くなって便利にはなっただけ、私の大切な北茨城の自然はいつまでも残したいと考えます。将来生まれてくる自分の子どもにも、今の自然豊かな北茨城を見せてあげたいです。そのためにも、ごみ拾いなど自分ができることを進んで行っていききたいと思います。

また、北茨城にはおいしい食べ物がたくさんあります。北茨城でとれるお米は、食感も味も良く、とても食べやすいです。あんこうも有名です。あんこうなべも、とてもかおりが良くて、たまたなく好きです。野菜もたくさんとれます。北茨城の食材をたくさん食べて、地産地消を心がけていききたいと思います。

次は、人物や建物です。人物では、「しゃぼん玉」や「七つの子」で有名な作詞家の野口雨情さんがいます。雨情さんの生家を訪れた際には、雨情さんの詩に様々な意味や気持ちが込められていることを知りました。建物では、特に花園神社が好きです。花園神社の春のしゃくなげや秋の紅葉は、とても美しいです。

東日本大しんさいの津波のひ害にあった建物もたくさんありましたが、北茨城市民の努力で少しずつもと通りになりました。きれいになった建物を見ると、たくさんの人たちの北茨城への愛情が伝わってきてとてもうれしくなります。

私は、北茨城に今後どうなってほしいか考えてみました。やはり、この美しい自然がこれからも守られ続けてほしいと思います。そして、北茨城が茨城県だけでなく、他県からも知られるみ力的な場所になってほしいです。私は、大好きな北茨城をもっとアピールできるようにいっぱい勉強して、その良さをこれから出会うたくさんの人たちに伝えていく一人になりたいです。

## 大好きな北茨城

関本中学校二年  
鈴木 ひより



私は、私の住んでいるこの北茨城市で、好きなところがたくさんあります。

一つ目は、とても自然が豊かだということです。この多くの自然のおかげで、青く輝いている海、季節ごとにさまざまな姿を見せる山など美しい景色を見ることができます。身近にあるものだったので、じっくり見ることは今までありませんでしたが、どこにでもこの豊かな自然があるものではないと気づきました。そして、改めてこの自然はこの町の宝であると感じました。今、地球温暖化が進んでいるのは、都市からの二酸化炭素が原因であるとよく聞きます。都市は、木を切り、その場所に建物を次々に増やしていきます。経済が発展し、外国とも良い関係を築いていくのはとても良いことだと思います。しかし、これ以上地球温暖化の影響を受けないためにも、北茨城市のような緑豊かな地域を残し、自然を大切にすること、一つの対策であると思います。私は、この自然豊かな北茨城市が好きです。

二つ目は、私が毎日通う学校です。全校生徒の人数はとても少ないですが、一年生から三年生まで皆仲が良く、協力し合い毎日楽しく過ごしています。私たちの学校は、平成二十八年四月から小中一貫校としてスタートします。これからは小学生とも過ごすので、私たち中学生がリーダーとして下級生を引っ張っていき、今以上に明るく素晴らしい、北茨城で一番元気な学校にしていきたいです。私は、この学校がある北茨城市が好きです。

最後に、北茨城市で一番好きな場所は、私の家です。私の家には、大好きな父、母、祖父、祖母、そして妹がいます。父は毎日、私たちのために一生懸命、働いてくれている一家の大黒柱です。母も、毎日働いてくれていて、私たちのことを第一に考えてくれています。祖父と祖母は、畑でおいしい野菜を作ってくれたり、両親が忙しいので、私たちの世話もしてくれたりしています。そして、私の妹は、年が離れていますが、私にとって元気を与えてくれる太陽のような、欠かすことのできない存在です。私に、毎日笑顔を与えてくれる、この家、家族が大好きです。

これらの三つは、どれも北茨城市にしかありません。今は、市内の人口もだんだん減ってきてはいますが、皆が元気で明るい町であることには変わらないと思います。これから十年後も二十年後も元気で明るい北茨城市であり、さらにもっと活気があって、老若男女がずっと笑顔で過ごすことができる北茨城市であってほしいです。私は、北茨城市について知らないことが数多くあります。これからもこの北茨城市の魅力を再発見していきたいです。

私の故郷は、北茨城市です。

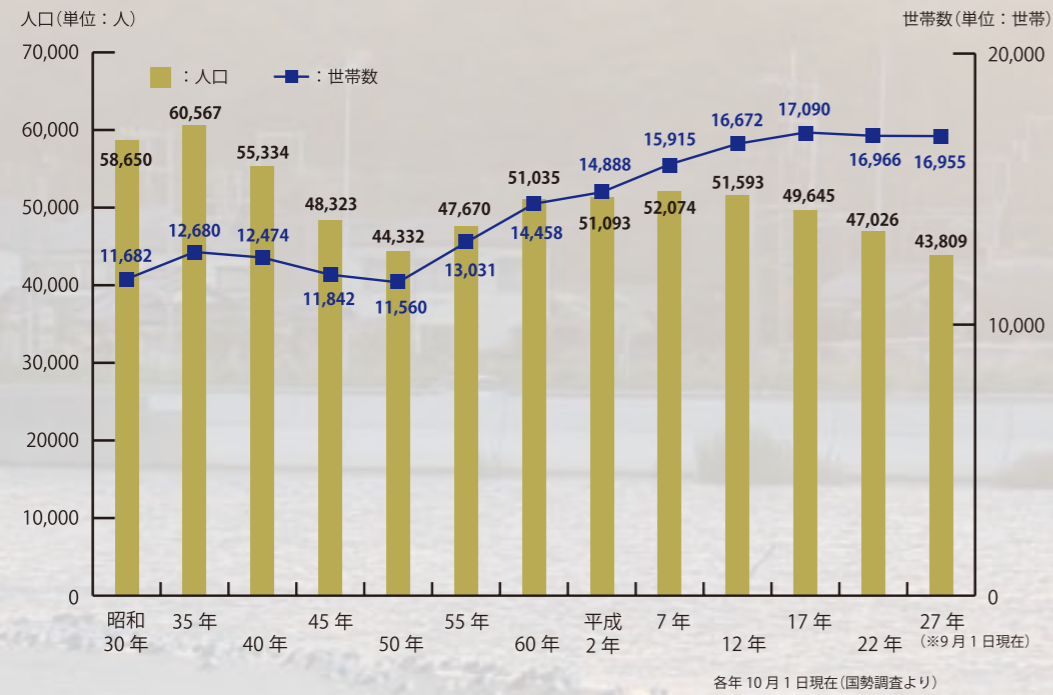
私は、北茨城市が大好きです。

# 資料編

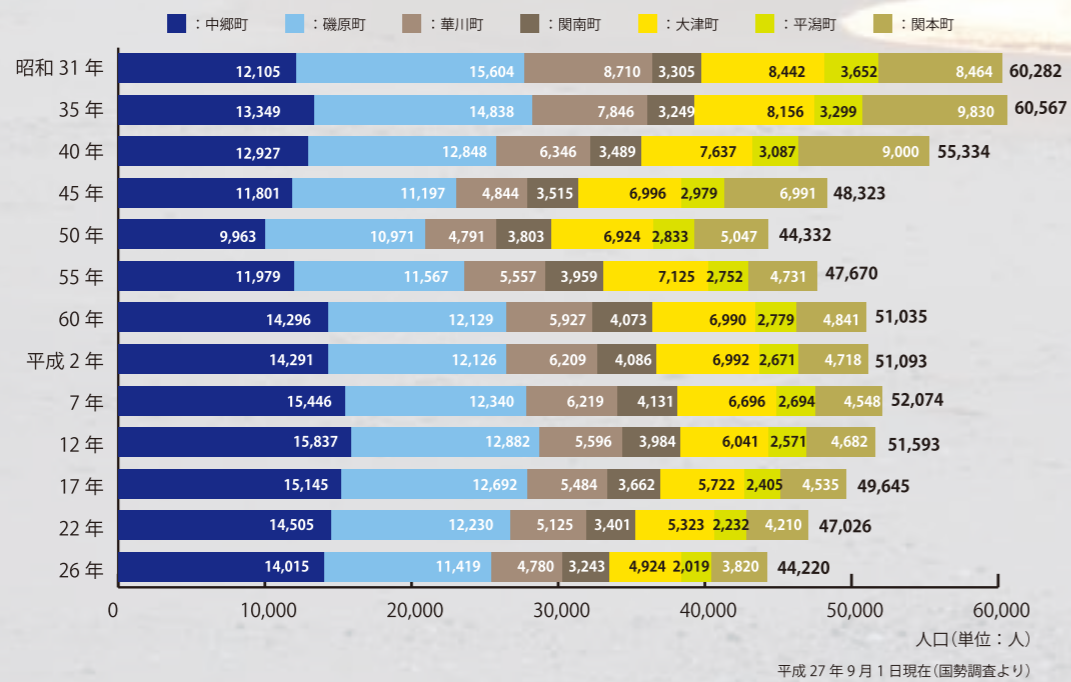
DATA OF KITAIBARAKI

## 人口・世帯数

■人口・世帯数の推移



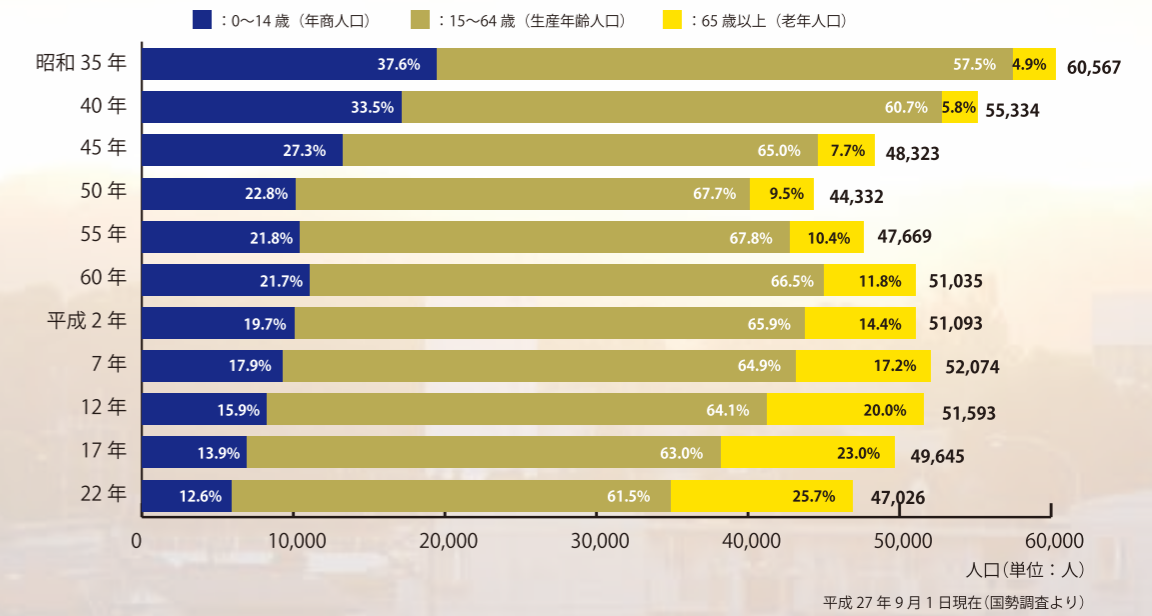
■町別人口の推移



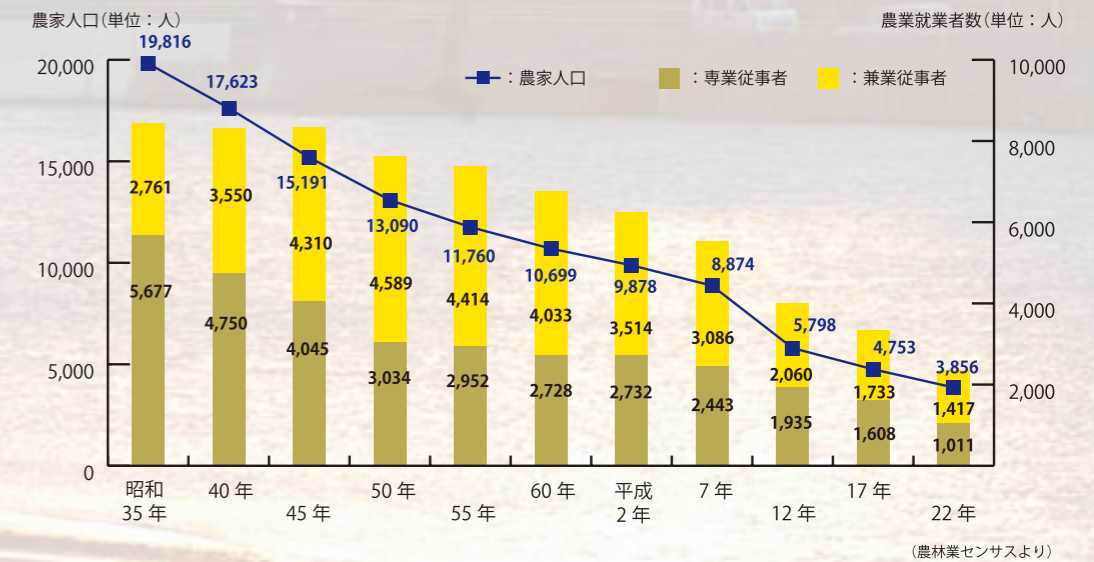
## 人口・世帯数

## 農業

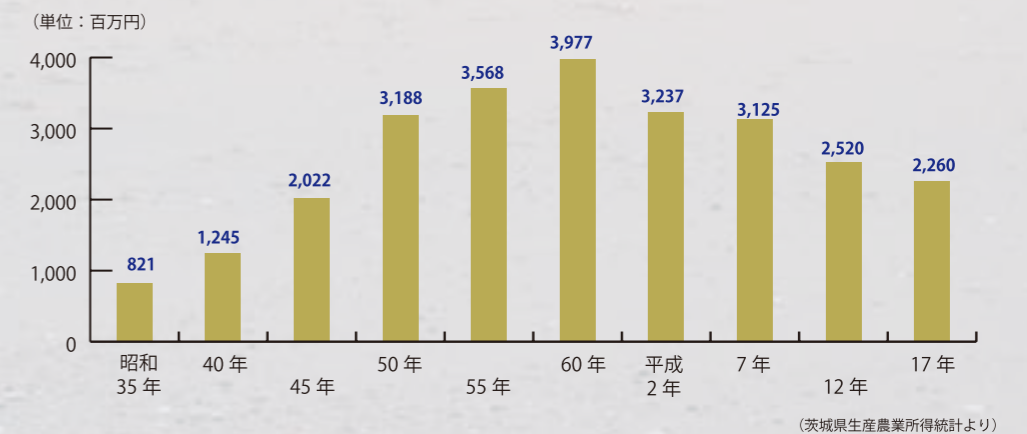
■年齢別人口の推移



■農家人口と農業就業者



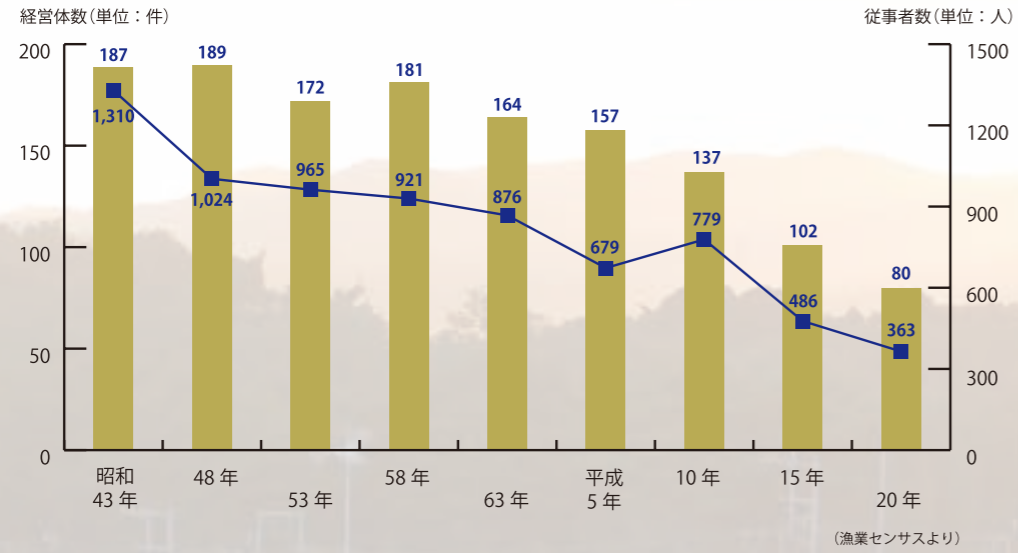
■農業産出額の推移



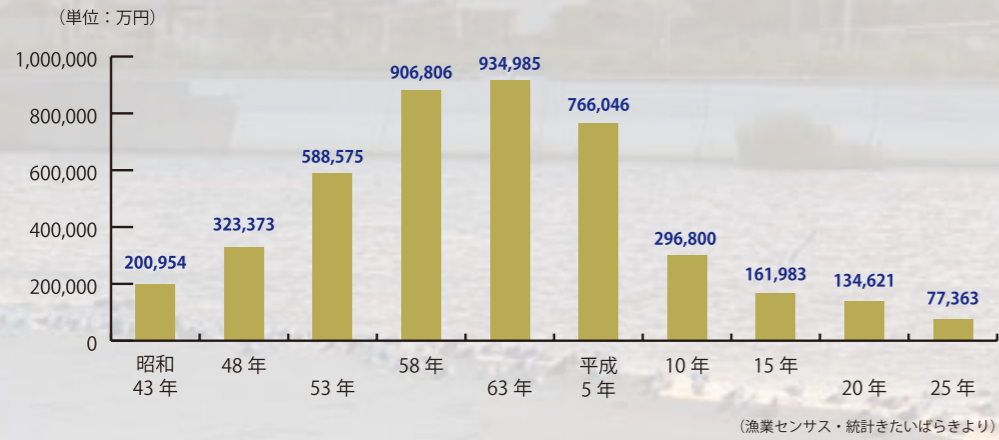


# 漁業

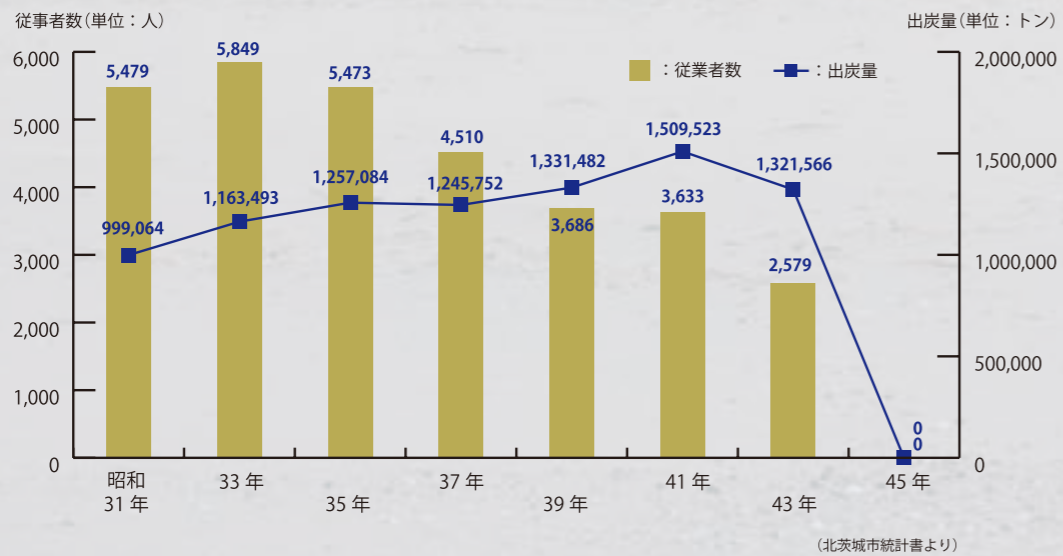
■経営体数・従業者数の推移



■漁獲高の推移



■従業者数・出炭量の推移



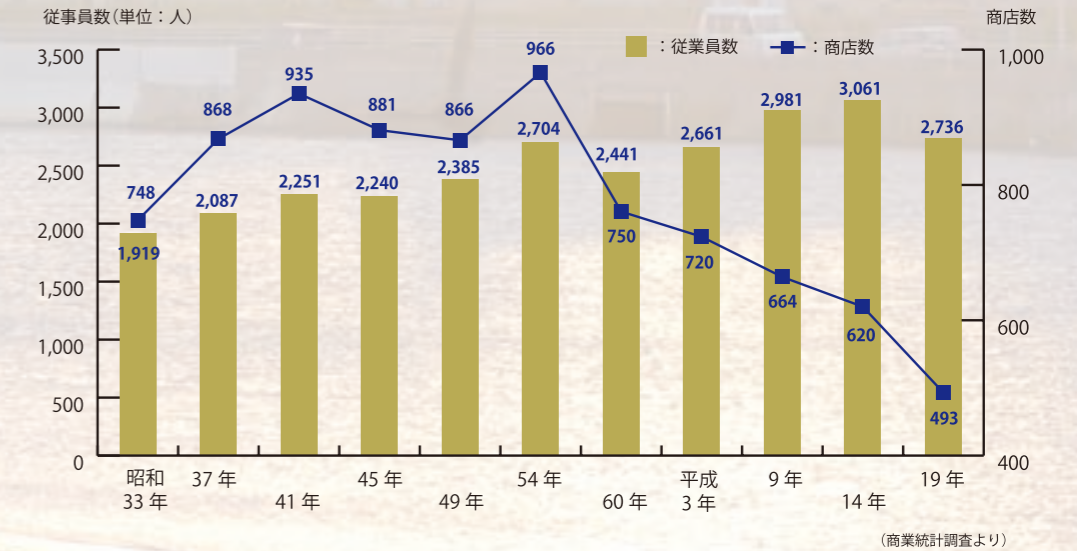
# 鉱工業

# 工業

■従業者数・製造品出荷額の推移

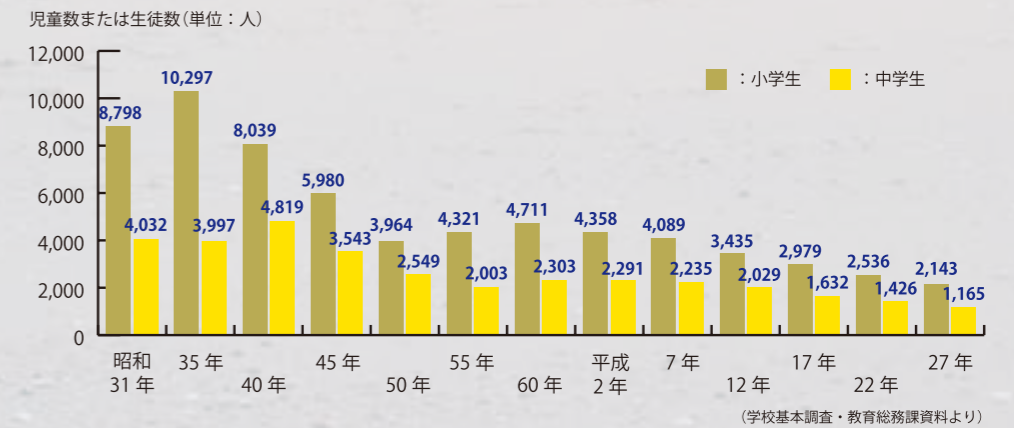


■商店数・従業員数の推移



# 商業

■児童数・生徒数の推移



# 教育

歴代市長・副市長・収入役

■市長

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	片 寄 富 七	S31. 5. 5	S35. 5. 4
2	片 寄 富 七	S35. 5. 5	S39. 5. 4
3	豊 田 實	S39. 5. 5	S43. 5. 4
4	豊 田 實	S43. 5. 5	S47. 5. 4
5	豊 田 實	S47. 5. 5	S50. 4.18
6	柴 田 章	S50. 6. 7	S54. 6. 6
7	柴 田 章	S54. 6. 7	S58. 6. 6
8	柴 田 章	S58. 6. 7	S61.10.29
9	松 崎 龍 夫	S61.12.14	H 2.12.13

■副市長（平成19年3月31日までは助役）

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	大 塚 軍 司	S31. 6.29	S35. 6.28
初代	赤 津 佐 光	S31. 6.29	S 35.6.28
2	大 塚 軍 司	S35. 7. 1	S39. 6.30
3	丹 孝 次 郎	S39. 8. 1	S43. 7.31
4	松 崎 元 広	S43. 9. 1	S47. 8.31
5	松 崎 元 広	S47. 9.28	S51. 9.27
6	松 崎 龍 夫	S51. 9.28	S55. 9.27
7	松 崎 龍 夫	S55. 9.28	S59. 9.20
8	松 崎 龍 夫	S59. 9.21	S60.12.10
9	清 水 充 雄	S61. 3.19	S62. 8.31

■収入役

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	滑 川 義 彦	S31. 6. 9	S35. 6.28
2	滑 川 義 彦	S35. 7. 1	S39. 6.30
3	松 崎 元 広	S39. 8. 1	S43. 7.31
4	宇 佐 美 正 昭	S43. 9. 1	S47. 8.31
5	渡 辺 政 則	S47. 9.28	S51. 9.27
6	渡 辺 政 則	S51. 9.28	S55. 9.27
7	渡 辺 政 則	S55. 9.28	S57. 8. 5

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
10	豊 田 稔	H 2.12.14	H 6.12.13
11	豊 田 稔	H 6.12.14	H 7. 5.21
12	村 田 省 吾	H 7. 6.18	H11. 6.17
13	村 田 省 吾	H11. 6.18	H15. 6.17
14	村 田 省 吾	H15. 6.18	H19. 6.17
15	豊 田 稔	H19. 6.18	H23. 6.17
16	豊 田 稔	H23. 6.18	H27. 6.17
17	豊 田 稔	H27. 6.18	現職

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
10	鐵 幹 男	S62. 9.28	H 3. 9.27
11	岡 部 良 一	H 3. 9.28	H 7. 9.27
12	石 川 幸 夫	H 7.10. 1	H10. 3.31
13	橋 本 武 次	H10. 4. 1	H12. 3.31
14	神 永 日 出 雄	H12. 4. 1	H14. 3.31
15	神 長 俊 一	H14. 4. 1	H19. 6.17
（平成19年6月18日から平成21年2月28日まで空席）			
16	石 田 奈 緒 子	H21. 3. 1	H25. 2.28
17	石 田 奈 緒 子	H25. 3. 1	現職

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
8	渡 辺 積 司	S58. 6.30	S62. 6.29
9	中 川 淑	S62. 9.28	H 3. 9.27
10	野 口 通	H 3. 9.28	H 7. 9.27
11	岡 部 良 一	H 7. 9.28	H11. 9.27
12	神 長 俊 一	H11.10. 1	H14. 3.31
13	山 縣 清 市	H14. 4. 1	H18. 3.31
（平成18年4月1日より空席）（平成19年4月1日より廃止）			

歴代議長・副議長

■議長

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	村 田 弥 一 郎	S31. 3.31	S32. 3.30
2	鈴 木 金 太 郎	S32. 4. 5	S34. 4.16
3	村 田 弥 一 郎	S34. 4.16	S36. 3.30
4	水 谷 甲 次 郎	S36. 4. 7	S38. 4. 5
5	村 田 弥 一 郎	S38. 4. 5	S40. 3.30
6	花 園 正 記	S40. 4. 7	S42. 3.20
7	花 園 正 記	S42. 3.20	S44. 3.30
8	柴 田 章	S44. 4.15	S46. 3.18
9	本 田 博	S46. 3.18	S48. 3.30
10	長 瀬 正 一 郎	S48. 4.17	S50. 3.25
11	鈴 木 直	S50. 3.25	S52. 3.30
12	今 井 廣	S52. 4.13	S54. 3.23
13	今 井 廣	S54. 3.23	S56. 3.30
14	今 井 廣	S56. 4. 7	S58. 3.23
15	村 田 素 雄	S58. 3.23	S60. 3.30
16	村 田 素 雄	S60. 4. 5	S62. 6.22
17	松 川 寿 郎	S62. 6.22	H元. 3.30
18	芳 賀 俊 夫	H元. 4. 6	H 3. 3.25
19	松 川 寿 郎	H 3. 3.25	H 5. 3.30
20	大 平 博 之	H 5. 4. 6	H 7. 6.10
21	小 林 政 弘	H 7. 6.29	H 9. 3.30
22	鈴 木 恒 夫	H 9. 4. 7	H11. 3.19
23	松 本 隆 雄	H11. 3.19	H13. 3.30
24	中 村 良 一	H13. 4. 5	H15. 3.19
25	古 茂 田 昇	H15. 3.19	H17. 3.30
26	豊 田 海 洋	H17. 4. 6	H19. 3.23
27	志 賀 秀 之	H19. 3.23	H21. 3.30
28	志 賀 秀 之	H21. 4. 6	H22.11.19
29	村 田 仁 人	H22.11.29	H23. 6.27
30	村 田 洋 文	H23. 6.27	H25. 3.30
31	鈴 木 和 栄	H25. 4. 5	在任中

■副議長

代位	氏名	就任年月日	退任年月日
初代	松 本 勝 太 郎	S31. 3.31	S32. 3.30
2	鈴 木 雅 盛	S32. 4. 5	S34. 4.16
3	水 谷 甲 次 郎	S34. 4.16	S36. 3.30
4	山 形 兼 吉	S36. 4. 7	S38. 4. 5
5	花 園 正 記	S38. 4. 5	S40. 3.30
6	鈴 木 竹 雄	S40. 4. 7	S42. 3.20
7	鈴 木 竹 雄	S42. 3.20	S44. 3.30
8	下 村 哲 雄	S44. 4.15	S46. 3.18
9	今 井 廣	S46. 3.18	S48. 3.30
10	宮 崎 諒	S48. 4.17	S50. 3.25
11	大 友 賢 次	S50. 3.25	S52. 3.30
12	杉 目 時 雄	S52. 4.13	S54. 3.23
13	小 野 寺 宦	S54. 3.23	S56. 3.20
14	村 田 素 雄	S56. 4. 7	S58. 3.23
15	小 林 政 弘	S58. 3.23	S60. 3.30
16	芳 賀 俊 夫	S60. 4. 5	S62. 3.24
17	鳥 居 塚 文 一	S62.3.24	H元. 3.30
18	大 和 田 護	H元. 4. 6	H 3. 3.25
19	古 茂 田 昇	H 3. 3.25	H 5. 3.30
20	松 本 隆 雄	H 5. 4. 6	H 7. 6.29
21	和 田 恒 喜	H 7. 6.29	H 9. 3.30
22	滝 一 司	H 9. 4. 7	H11. 3.19
23	滑 川 光 潤	H11. 3.19	H13. 3.30
24	豊 田 海 洋	H13. 4. 5	H15. 3.19
25	鈴 木 信 男	H15. 3.19	H17. 3.30
26	村 田 洋 文	H17. 4. 6	H19. 3.23
27	村 田 仁 人	H19. 3.23	H21. 3.30
28	村 田 仁 人	H21. 4. 6	H22.11.29
29	緑 川 貞 幹	H22.11.29	H25. 3.30
30	鈴 木 啓 一	H25. 4. 5	H27. 7.22
31	豊 田 海 洋	H27. 7.22	在任中

名誉市民



**片 寄 富 七 氏**（明治33年7月19日生～昭和57年9月20日没）  
 贈呈日 昭和43年6月24日  
 昭和26年4月磯原町第23代町長に就任し、県立磯原高等学校の創設を計画、同28年これを実現した。同30年3月磯原町、華川村の町村合併、翌31年3月31日磯原町、大津町、平潟町、関南町、関本村、南中郷村の6カ町村を合併し、北茨城市制を施行した。昭和31年5月北茨城市初代市長に就任し、2期8年間市長を務めた。この間、水沼ダムの建設、小中学校の増改築、水沼診療所の開設、さらに火葬場、し尿処理場、塵芥処理場、市立病院等を建設し、今日の北茨城市の基盤を築かれた。



**豊 田 實 氏**（明治42年2月28日生～昭和50年4月18日没）  
 贈呈日 昭和50年4月30日  
 昭和39年4月第3代北茨城市長に就任し、3期11年間市長を務めた。新工業都市への街づくりを決断し、就任後直ちに、磯原工業団地造成工事に着手、引き続き磯原B工業団地造成事業も完成させた。民間の工業団地造成事業にも力を注ぎ、その規模は、167ヘクタールに達し新工業都市の基礎を築かれた。一方、県立北茨城高等学校の開設、上水道及び工業用水道の浄水場建設、住宅団地造成、北茨城市消防署を発足させる等市民生活の安定に尽力された。



**柴 田 章 氏**（大正6年7月30日生～昭和61年10月29日没）  
 贈呈日 昭和61年11月7日  
 昭和50年6月第6代北茨城市長に就任し、3期11年間市長を務めた。この間、鉱害復旧事業、中郷工業団地造成事業に着手し、産業構造の近代化に努め、新市街地都市基盤整備のため、磯原駅西区画整備事業に着手した。歴史民俗資料館や各地区に公民館を建設し、市民にコミュニティの場を提供する一方、市民体育館野球場、サッカー・ラグビー場を建設し、スポーツの振興にも尽力された。



**野 口 雨 情 氏**（明治15年5月29日生～昭和20年1月27日没）  
 贈呈日 平成3年12月6日  
 茨城県多賀郡北中郷村磯原（現、北茨城市磯原町磯原）に生まれ、本名は英吉といい64歳の生涯中、数多くの作品、評論等文学的な価値の高いものを残された。作品は独特の感性を持ち、平明、簡潔な言葉でありのままの純真、素朴な人情や自然の姿を愛深く詩情豊かにうたい上げている。主な作品は、シャボン玉、黄金むし、紅屋の娘、兎のダンス、雨降りお月さん、あの町この町、証城寺の狸ばやし、船頭小唄、波浮の港、十五夜お月さん、七つの子等々。

北茨城市制60周年記念誌

# 北茨城市 60年の軌跡

そして未来へ

平成28年3月発行

---

発行 北茨城市  
〒319-1592 北茨城市磯原町磯原1630  
TEL.0293-43-1111 (代)  
<http://www.city.kitaibaraki.lg.jp/>

制作 茨城新聞社